平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	富洲原まち・ひと・しごと創生	地区名	富洲原

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
「ひと」のつながりが深く、 「まち」の幸福度が高く、 「まち」の魅力が「まち」へのひと・しごとの流れを生んでいる。 ＝かつての富洲原への回帰 「人情敦厚にして性質単純活淡而も熱情に富み、他を愛すること己のごとく、為に他地方人士の来往するもの何れも其の住みやすきを嘆称す」 （大正 12 年の富洲原町案内の記述）	【外部環境の変化】 ・人口が逓減し、高齢化が進行している。 ・都市のスポンジ化が進んでおり、空き家が増加 ・地場産業の後継者不足による後退 【内部環境の不適応】 ・保幼小中と同じ顔ぶれで過ごすこともあり、外部からの刺激が少ない。 ・過去の恵まれた環境の記憶もあり、緩慢と進行してきた上記の地域課題への認識が薄く、地域で対応していくためのアクションや組織づくりがなかなか進まない。

3. 課　題

(1)地域の高齢化、人口流出により地域の**つながる力**が弱まっている。
(2)地域の**個性**がかつての合併、都市化により埋没
(3)まちづくりの担い手不足、若者などの不在
(4)地域に課題解決志向の「**場**」がない。
(5)まちづくり構想が未策定⇒まちづくりの**ビジョン**について、明文化されたものがない。

4. 実施内容

(1)　「まち」「ひと」のつながる力をつける

ICT をテコに地域住民のネットワークを広げることで、 相対的に健康で、寿命が長く、就業率が高い環境をつくる。（まちづくり、福祉、防災、防犯の体力をつける）

①SNS を活用した地域情報の発信（随時）

facebook「富洲原ぷらっと」により情報発信を行った。
「いいね」から始まる地域の個性の発信と個性に興味を持つ人との結びつけ

富洲原ぷらっと

(例)四九の市の活性化

facebook への投稿、交流等を契機に地域の若手有志から四九の市へマルシェ的な出店について相談を受ける。
⇒市（いち）、地元関係者に繋ぐ⇒四九の市-29market-（出店者 5 名）

ページへのいいね　151 人　フォロワー　158 人　最大リーチ　884 人

②高齢者へのスマホ、タブレットの普及

ICT のノウハウについて高齢者が高齢者を教える循環を作るため、老人会の有志を中心に結成された「高齢者の情報化相談室」による講習会を開催した。

・インスタグラム講習会（1 日コース）　受講者 6/16　3 人、6/23　3 人
・5 月～7 月　毎週、月曜日の午前　図書室にて操作方法の相談
・3/16, 3/27 スマホ＆タブレットお楽しみ会（各 10 人）

③地域会議、連絡網の SNS 化の検討

「高齢者の情報化相談室」で導入、Line で企画案等の相談
⇒　老人クラブ（きらく会）役員に普及
⇒自治会、自主防災での普及検討

(2)「まち」の個性、魅力を再発見、共有する

まちづくり構想策定に向けての前段として、地域の可能性を探るためのワークショップやアクション＆プランのためのイベントを開催した。

①SNS を利用した地域の魅力の発信（随時）

facebook「富洲原ぷらっと」により情報発信を行った。

②富洲原 3 大祭りインスタグラムフォトコンテストの開催

instagram(スマートフォンのアプリ)を活用して、ネット上の写真コンテストを開催、地域の魅力を写真で世界に発信した。

【応募】松原石取り祭、富田一色けんか祭、天カ須賀石取祭りの写真を instagram に投稿
写真投稿時にコメント欄に「#tomisuta2017」と入れる。
応募対象　一般（地区外も可）
【審査】「#tomisuta2017」で検索した投稿写真一覧を見て審査。
応募期間 7/14～8/25　応募総数 339 件

#tomisuta2017

③マッピングパーティの開催（3 月 17 日開催）

地域内外に参加者を募り、スマホやデジカメを手に地域の旧跡などを、気づいたことを撮影、メモして歩き、その後、郷土史などの文献も参考にして、集めた情報をネット上に公開された地図（OpenStreetMap ）や辞書（Wikipedia）にかき込んで、Umap で富洲原のみどころマップを作成した。（講師 4 人　歴史部会 6 人　一般参加者 9 人）

⇒結果を今後のまちづくり構想等に活用していく

（準備活動）　6/18 宇治市のマッピングパーティに参加　4 人
12/9 京都市のマッピングパーティに参加　6 人
1/15 京都市のマッピングパーティに参加　2 人

マッピングパーティ
CTY ケーブルニュース

④デジタルマップによる情報発信

マッピング・パーティの成果をもとに富洲原の見どころ Map を作成した。

街歩きコース（Ｕｍａｐ）

⑤歴史文化資源を生かしたまちづくり

・まちづくり推進委員会の下部組織として「歴史部会」が設置され、下記の取り組みが実施された。

8/24　今年度の取組について協議（オーラルヒストリー、昔の写真、資料のマッピング）（6 人）
9/21　第 1 回オーラルヒストリー採取（高齢者が語る昔話の聞き取り）（10 人）
10/19　第 2 回オーラルヒストリー採取（高齢者が語る昔話の聞き取り）（10 人）
随時　上記で話題になった船着き場、銭湯等の現場確認
11/30　現場確認の検証
12/27、1/24　マッピング実習・作業（8 人、7 人）
2/20、3/14　マッピング・パーティ企画（6 人、6 人）

・地域の古い写真、資料のデジタル化

高齢者が身の回りを整理する際に、古い写真等の寄贈の話が増えているが、整理する人員、保管場所がない状況である。そこで、歴史部会と連携して資料整理をするメンバーと保管場所を募集して、整理メンバーによりデジタル化保存を進めた。

⇒Wikipedia commons に保存
将来的には、空き蔵等を利用した「郷土資料館」に収蔵、展示することを目指している。

・富洲原の盆踊唄等の復活

郷土が誇る芸能大会見学者から、富洲原でも音頭、踊りをとの声が上がる。
過去には盆踊唄があったとの情報をもとに資料を捜索したところ、「日本民謡大綱　近畿編」に富洲原の艪漕唄と盆踊唄が採譜されていた。
老人会、氏子総代会の有志による盆踊唄復活同好会（仮称）で情報収集するなかで、三重県の民謡（民謡緊急調査）に「富洲原小唄」、「地引網のかけ声」の歌詞などが見つかる。

⇒残された資料、伝聞をベースに復活活動を進めている。
⇒Wikisource に保存

・地域で維持してきた歴史文化施設の継承策

松原地区で祭や史跡等を活用したまちづくりが芽生えているため、進捗状況に応じて講師等の紹介、派遣を行った。

⇒今後の、まちづくり構想等に活用していく

12/16　皇学館大学でのワークショップに参加　（地域住民 10 人、大学院生 20 人、学生 80 人）

⑶「まち」に「ひと」「しごと」を呼び込む

①空き家の活用について

[課題]空き家の所有者が地域で把握できなくなってきている。
（H28 年の雪害時に、屋根瓦の落ちた空き家が多数出たが所有者の確認に手間取った。）

空き家の所有者、意向について知るきっかけづくりが必要
⇒まちづくり推進協議会の部会として「空き家部会」が設置され下記の取り組みが実施された。
8/21 地区外在住の空き家所有者を交えた勉強会（8 人）
10/20 部会の進め方について協議（モデル的に富田一色の空き家の状況を調査、活用方法を探ることとする。）（7 人）
12/10 京都市六原地区を視察（6 人）
2/2 建築、不動産、空き家所有者等との懇談、委員委嘱（6 人）
2/17 空き家見学会(10 人）
3/19 新委員との顔合わせ（9 人）

空き家見学会
CTY ケーブルニュース

②域学連携

外からの若者の視点から、富洲原の課題と解決のデザインを探った。
8 月 15 日~17 日に、**慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生による合宿調査**（教授等 2 人、学生 14 人）
けんか祭りに参加、現地踏査、住民との懇談会（20 人）ののち「住民」「食」「子ども」の 3 テーマで調査・発表（30 人）

「住民班」作成動画

③地域課題解決人材の育成と新たな資金調達の手法の取得

地域みらい大学＠富洲原の開催

ソーシャルデザインを得意分野とする NPO（イシュープラスデザイン）が全国的に開催している地域みらい大学の一つとしてワークショップを開催した。(2 回)
第 1 回　7/2(日)　講演　「地方創生、人口減少のためのデザイン思考」　筧裕介さん
ワークショップ「富洲原の課題を洗い出そう」（参加者 23 人）

第 2 回 12/2(土)　ワークショップ「富洲原の人財・知財を発掘しよう」（参加者 13 人）
終了後に反省会　　（参加者 6 人）
⇒今後、ワークショップで出た地域資源をもとにクラウドファンディングにより資金を集めて、PR 冊子「富洲原人」作製を目指す。

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	高齢者への ICT 技術の普及 インスタグラム講座、タブレット交流会	12,000	高齢者の情報化相談室 水谷武彦
	ｲﾝｽﾀｸﾞﾗﾑ写真ｺﾝﾃｽﾄ	9,000	北洞書店
	マッピングパーティ開催 指導者報償費 3 人×2 回	128,000	Code for 山城 代表 青木和人
	域学連携事業 慶應大学湘南藤沢キャンパス（SFC）合宿調査	399,000	一ノ瀬研究会 代表 一ノ瀬友博
旅費	マッピングパーティ開催 先行イベントの視察（宇治、京都）	60,780	地元参加者等 計 10 人
	空き家の活用 京都市六原地区視察	30,220	地元参加者等 計 6 人
	域学連携事業 SFC オープンリサーチフォーラム参加（東京）	94,580	地元参加者等 計 4 人
	域学連携事業 皇学館大学ワークショップ参加（伊勢）	47,360	地元参加者等 計 10 人
需用費	マッピングパーティ開催 資料用消耗品	9,243	㈱香久屋 ㈱四日市事務機センター
	歴史資料デジタル化 カラープリンタ、インク、ブックプレッサー	75,386	㈱四日市事務機センター 富士電機ITｿﾘｭｰｼｮﾝ㈱三重支店 ㈱エディオン
	地域課題解決人材育成 ワークショップ用消耗品	15,332	㈱香久屋 ㈲青商店
委託料	地域課題解決人材育成 地域みらい大学開催	399,600	特定非営利活動法人 イシュープラスデザイン
備品購入費	歴史資料デジタル化 スキャナ、PC	165,348	富士電機ITｿﾘｭｰｼｮﾝ㈱三重支店 ㈱四日市事務機センター
合 計		1,445,849	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
facebook へのいいね	200	151
まちづくり構想策定委員会	組織化	まちづくり推進協議会に 4 部会を設置 （歴史、空き家、安全安心、地域包括ケア） まちづくり構想策定のための課題と人材の発掘に着手。

7. 成果	8. 反省点・今後の展開
(1)地域の人のつながりが広がることで、健康寿命の延伸、幸福感の増進につながり、地域課題の解決に向かう底力を徐々につけていると実感している。 ①自治会や地域団体関係者でSNSの利用者が増えることでコミュニケーションが円滑になった。 ② SNS等で、まちづくりの課題、他地区での取組等の情報を発信し、それに対する気楽な「いいね」やコメントなど「ゆるい参加手段」を設けることで、普段は地域組織に参加していない層を含めてまちづくりへの関心を高めることができた。 （四九の市への「とみすっこ」の参加など 30〜50 歳代の有志で富洲原を盛り上げていこうという動きが出始めている。） (2)学生の調査に対して、地域の魅力を紹介する機会が生まれ、「富洲原」を見直す空気が生まれた。 (3)まちづくり構想策定も視野に入れ、まちづくり推進委員会に「歴史」「空き家」「安全安心」「地域包括ケア」の４部会を設置、各委員が関心のあるテーマに参加し、自発的な取り組みが生まれつつある。さらに外部の専門家や新たな地域の有志も交えて地域の枠を超えた知恵を結集して、地域課題の解決を目指していく。	(1)まちづくり推進協議会に 4 部会を設置して、まちづくりに邁進することになったが、急遽、3 地区連合自治会で個別に開催していた運動会を１つにまとめ「富洲原大運動会」として開催することとなり、まちづくりに本格的に着手するタイミングが年度後半にずれ込んだ。 (2)地域みらい大学＠富洲原を、60 代の地域マネージャー世代＋若い世代を、まちづくりに引き込むことを目的に開催したが、参加が少なかった。 開催日時等、ターゲット層の集まりやすい日時、テーマの設定、出席者の最終確認の必要性を感じた。 一方で、参加者の感想は好評であり、他の場（学校、PTA 等）でもやってみたいとの声もあった。ワークショップのノウハウも吸収したことから、今回の共感が相乗的に広がることを期待したい。

館長権限予算実績報告（写真資料）　富洲原地区

1.「まち」「ひと」のつながる力をつける

①facebookによる地域情報発信「富洲原ぷらっと」

　　いいね151人　フォロー158人

「高齢者の情報化相談室」による

～スジなし、ごった煮、文句なし～

スマホ＆タブレットお楽しみ会　3/16　3/27

2.「まち」の個性、魅力を再発見、共有する

②富洲原3大祭りインスタグラムフォトコンテストの開催 応募期間7/14～8/25　応募総数339件

インスタグラムフォトコンテストの表彰式

若い世代がまちづくりに関心をもつきっかけに

③マッピングパーティの開催（3/17日開催）

（講師4人　歴史部会6人　一般参加者9人）

⑤歴史文化資源を生かしたまちづくり
歴史部会でのオーラルヒストリー聞き取り
（昭和初めごろの話）

⑤歴史文化資源を生かしたまちづくり
12/16　皇学館大学でのワークショップに参加
（地域住民 10 人、大学院生 20 人、学生 80 人）

⑶「まち」に「ひと」「しごと」を呼び込む

①空き家の活用について
2/17　空き家見学会(10 人)

②域学連携
8/15~17　慶応義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生による合宿調査（教授等 2 人、学生 14 人）
男子学生がけんか祭りに参加

③地域課題解決人材の育成
地域みらい大学＠富洲原の開催　7/2　12/2

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	安全･安心を地域で支え合う体制構築事業	地区名	富田①

1. 望まれる地域の姿

一人一人が健康に過ごせるように健康増進が図られ、自宅が終の棲家となるように地域医療、地域福祉が充実している。

2. 地域の現状

- マンション等の建築により、他地区から転居する人が増加している。
- 一方、後期高齢者は全市と比較すると高い状況にある。

3. 課　題

- 高齢化により、救護を必要とする機会が多くなっている。
- 南海トラフ地震等が発生した際に、迅速な医療活動に繋げるため、救護者は被災者の情報を正確に把握する必要がある。
- 自助や共助の関係を維持するとともに、より強化を図る必要がある。

4. 実施内容

1.救急医療情報キットの作成

災害発生時や急病の際に、第三者が緊急連絡先や詳細な医療情報が把握できるように、救急医療情報キットを配布した。

配布については自治会による全世帯配布とし、自治会未加入世帯にも配布した。（5，550個）

2.講習会等の実施

講習会では、命を守る知識を習得する講習を行い、心肺蘇生、AEDの使い方やけがの手当などを学びスキルの向上を図るとともに、緊急連絡先や詳細な医療情報を伝える重要性について学ぶ機会を設けた。

講習会は、消防本部より指導を受けた地域住民が、講師補助としてAED操作の講習を行い、地域における自助、共助の体制の強化に努めた。

開催年月日：H30.1.28　　参加人数：532人　参加対象者：富田地区住民

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	富田地区救急医療情報キット作成	882,450	富士印刷株式会社
	救急医療情報カード印刷	2,160	富士印刷株式会社
委託料	救命講習会開催	97,200	富田地区連合自治会
合　計		981,810	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
自治会に新たに加入する世帯数	12 世帯	12 世帯
講習会等への参加人数	500	532

7. 成果

自治会未加入者に対し、自治会活動等の説明を行い、未加入者が自治会の必要性を理解することで、共助の関係を強化できるよう、自治会への加入を促した。

8. 反省点・今後の展開

新たに富田地区へ転居する住民に対し、自治会の活動への理解を図るとともに、自治会加入を促し、地域の連携を強化していく。

〈講習会〉

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	『中学生が語る富田の未来』意見発表会	地区名	富田②

1. 望まれる地域の姿

未来を担う若者が住み続けたいと考えるまち

2. 地域の現状

・　『富田地区まちづくり構想』は、社会を担っている大人が議論し作成したものである

・　『富田地区まちづくり構想』は平成 20 年 4 月に作成され、10 年が経過している。

・　これに基づき、市が『富田地区都市計画マスタープラン（地域・地区別構想）』を平成 24 年 3 月に作成し、まちづくりをすすめている。

3. 課　題

まちづくり構想は、今を生きている大人が構想したものである。このため、次時代を担う子供たちの意見が反映されたまちづくり構想となっていない。

4. 実施内容

『中学生が語る富田の未来』意見発表会の開催

・　中学生6人が中学校教員の進行により意見発表を行った。

・　意見発表会資料を冊子に取りまとめ、中学生（PTA）及び教員、自治会等の団体へ配布し『富田地区まちづくり構想』の改定の際の資料とした。

・　開催年月日：H30.1.27　　参加人数：70 人　　参加対象者：特に限定せず

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
委託料	『中学生が語る富田の未来』 公開討論会開催	98,280	富田地区まちづくり協議会
合　計		98,280	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
意見発表者	6 人	6 人
聴取者	50 人	70 人

7. 成果

中学生の既成概念に囚われない自由な意見を取り入れた『富田地区まちづくり構想』に向けた機運を盛り上げることができた。

また、世代を超えた交流をすることで、化学反応が生じ、地域づくりの動きに新たな効果が見られた。

8. 反省点・今後の展開

策定してから１０年が経過した『富田地区まちづくり構想』の見直しに際し、未来を担う若者が住み続けたいと考えるまちを実現するため、意見発表会の意見を取り入れる。

討論会の状況

中日新聞記事（H30.1.28 付）

祭りや環境保全に意見

四日市富田中生　まちづくり協と交流

富田地区の課題、まちづくりの提案を発表する生徒たち＝四日市市東茂福町の富田中で

町づくりに子どものアイデアを生かそうと、四日市市富田地区まちづくり協議会は二十七日、富田中学校で交流イベント「中学生が語る未来の富田」を初めて開いた。伝統の鯨船行事、地域の美化など、生徒たちがそれぞれ持論を語った。

二年生六人が発表し、地域住民七十人が耳を傾けた。金井雅子さんは、国連教育科学文化機関（ユネスコ）無形文化遺産の鳥出神社鯨船行事や、地域の石取祭について「子どもが祭りに参加しながら、長く富田に住み続ければ伝統は守れる。まずは自分が積極的に参加して、小さい子に鉦（かね）のたたき方を教えていきたい」と担い手不足の解消策を提案した。石黒尚誉（なほむ）さんは、毎年「桜まつり」が開かれる十四川の清掃の必要性を訴え「住民一人一人が川をきれいにする意識を持ち、清掃運動を広げたい。桜の知名度も上がる」と期待した。

協議会は今後、生徒の発表内容とそれを受けたまちづくり施策を冊子にまとめ、学校に贈る。樋口勝典会長（七四）は「子どもが地元を知る機会になり、大人たちにも気づきをもたらした。来年も続けたい」と話した。

協議会は地区の連合自治会や社会福祉協議会など十四団体が参加し、昨年四月に発足した。イベントは六月から学校に働き掛け、実現した。（高島碧）

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	来訪者おもてなし及び地域交流事業	地区名	羽　津

1. 望まれる地域の姿

地域の人材を掘り起こしこれを活用してまちのにぎわいを取り戻す。また、この事業により地域の人々の交流をより一層活発化する。

2. 地域の現状

・羽津地区は他地区から転入してきた住民が多く地域住民の交流も少ない。
・地域のまちづくり活動は活発であるが、次世代の後継者を育成する必要がある。

3. 課　題

地区内では転入者のエリアと旧の在所のエリアが分かれており、世代間や地域間での人のつながりが希薄である。また、さまざま事業でイベントを開催するもスタッフはある団体等に固定され後継者の育成が必要である。よって、地域に愛着を持ち、ひとびとがふれあう機会を提供する必要がある。

4. 実施内容

① **郷土芸能「羽津音頭」の復活**

平成 29 年 8 月 12 日に開催された志氏神社で行われた地区の盆踊り大会において「羽津音頭」を復活。「羽津音頭」の映像をもとにマック中原氏に依頼して若い世代の方々にも踊りやすい新調の音頭を作成した。

② **まちづくりを支える次世代後継者の育成**

8 月 19 日（土）14 時から 20 日 15 時、小中学生を対象として「防災サバイバル体験」を羽津北小学校にて実施した。本事業では、子ども自身が、子ども同士で災害や防災について考え、実際の避難所の生活の一端を疑似体験（ダンボールパーテーション作成・非常食炊飯・宿泊体験、まち歩き防災マップ作成）することで防災の大切さや災害の怖さを知るとともに大人たちが地区の安全をどのように考えているかを学ぶことを目的とした。

また、この行事を通じて地区全体としての防災意識の向上、大人と子どもの交流でコミュニケーションの促進を図り、災害に強い羽津地区づくりに活かしていく。

対　象　者　：　小学校高学年、中学生（参加者 32 名）
ボランティア　：　高校生 3 名参加　地区の皆さん 41 名
講　　　師　：　こども向けの防災訓練を得意とした講師の招聘　「早川　大」

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
委託料	羽津音頭制作	910,440	羽津地区まちづくり推進協議会
	防災サバイバル体験	345,600	羽津地区まちづくり推進協議会
合　計		1,256,040	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
防災サバイバル体験参加者数	60人	76人

7. 成果

8. 今後の展開

親しまれていた「羽津音頭」を羽津盆踊り等の行事で老若男女、皆で踊ることにより地域の一体感が醸成された。 2年目となる防災サバイバル講座は子供たちの口コミで参加者が多く早々に締め切った。子供たちは、遊びの中から防災の基本を学習した。特にダンボールを使ったパーテーションづくりは各班の個性がでて講師の方々も感心するものがあった。	今年はニューバージョンの披露が出来なかったが、平成30年度は地区の盆踊りを初めとして徹夜踊り、文化祭、郷土が誇る芸能大会などいろんな場所で披露して普及・振興活動を行っていく。 今回の防災サバイバルは、自分たちで体験することを重視したが、準備不足でまち歩きと防災マップ作成において、スタッフの理解が統一していなかった。 次年度以降も防災リテラシーを持った人材を養成するこうした企画を継続的に進める。

写真
①「羽津音頭」

②防災サバイバル体験

新・羽津音頭

作詞・作曲／マック中原　編曲／ISSY

一　垂坂山から見下ろせば　コンビナートが輝いて
　　四翠の里を照らしては　心穏やか晴れてくる
　　は〜あ　羽津は良いとこ　心も弾む
　　みんな輪になって踊ろやないか　踊ろやないか

二　歴史あふれる東海道　米洗川と交わって
　　八幡常夜灯　夫婦石　志氏神社一の鳥居
　　は〜あ　羽津は良いとこ　心も弾む
　　みんな輪になって踊ろやないか　踊ろやないか

三　城山公園桜舞う　春の衣装を纏う羽津
　　糠塚山で夢祈り　志氏の大地で夢が咲く
　　は〜あ　羽津は良いとこ　心も弾む
　　みんな輪になって踊ろやないか　踊ろやないか

四　東を見れば海があり　西を見上げりゃ山がある
　　霞ヶ浦、羽津山緑地　賑やかな声が響く町
　　は〜あ　羽津は良いとこ　心も弾む
　　みんな輪になって踊ろやないか　踊ろやないか

五　羽津の音頭で歌えや踊れ　心重ねた和が熱い
　　ドームの頭に陽が昇り　羽津の活気が降り注ぐ
　　は〜あ　羽津は良いとこ　心も弾む
　　みんな輪になって踊ろやないか　踊ろやないか

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）　実績報告書

事業名	地域ふれあい推進事業	地区名	常磐

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
少子高齢化が進展するなか、すべての世代が「ふれあい」を通して、仲間意識を醸成し、他人を思いやることができる地域。	常磐地区が都市化が進み、人々が自然に触れる機会が少なくなっている。また、流動人口も多く、地域の一体感が醸成されにくくなりつつある。

3. 課　題

都市化の進行等により、地域が一丸となって取り組むべき防災対策事業などの推進が困難になる恐れがある。地域のふれあいを推進することで、地域力を強化することが急務となっている。

4. 実施内容

1．子どもたちの農業体験

常磐小学校、常磐西小学校の各校区内に農地を借り上げ、小学校2年生を対象として、地権者、地域の方々等の協力を得ながら、6月20日にはさつまいもの苗植え、10月18日には収穫の体験を行った。

また、収穫したさつまいもは11月5日に開催された「常磐まつり」において焼き芋の試食、生芋の販売を行い、売上金等42，878円を九州北部大雨災害の被災者への義捐金として寄付した。

2．松本山の整備

地区内に残された貴重な自然がある丘陵であり、現在策定中のまちづくり構想の中でも、その整備等について議論が行われている。一方で、その管理については、松本山の保存会が担っており、高齢化等により、担い手が不足しつつある。

そのため、その管理について、保存会とも協力しつつ、管理できる方策を模索する。

3．あすなろう鉄道の利用促進

あすなろう鉄道は地域にとって重要な公共交通機関であり、今後とも存続が望まれている。そのため、赤堀駅周辺の地域の魅力を発信するために、赤堀ふれあいまつりに合わせ、あすなろう鉄道の啓発用グッズを配布した。さらに、地域に呼びかけ、赤堀駅周辺の清掃活動を行った。

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	栽培指導者報償費	120,000	地元農業関係者（2名）（農地借り上げ料含む）
需用費	栽培資材（苗、肥料等）	63,647	三重北農業協同組合
	看板資材	18,360	常磐工芸㈱
	用紙	2,800	㈱ワークス
	栽培用資材	76,711	DCMカーマ㈱
	事業掲示物	22,248	フコク印刷工業㈱
	樹木剪定用具	91,680	カインズホーム
委託料	樹木の伐採	443,880	（有）舘造園
	啓発グッズ作成	131,760	（有）T&JSolutions
使用料及び賃借料	石焼いも器使用料	64,800	ダスキンレントオール
	ガス使用	6,512	三重品川産業㈱
合　計		1,042,398	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
関係児童満足度	90%	91%
常磐まつり参加者満足度	90%	94%
赤堀駅清掃活動参加者	20人	19人

7. 成果

1．子どもたちの農業体験
・農業とのふれあい
・世代間交流
2．松本山の整備
・貴重な自然の有効利用
・地域の交流
3．あすなろう鉄道の利用促進
・地域の交流
・赤堀駅周辺地区の魅力発信

8. 今後の展開

1．子どもたちの農業体験
　評判の良い事業であるが、３年目を迎え、次年度以降、地域で継続するか否か調整中。
2．松本山の整備
　まちづくり構想策定の進捗にあわせ、地域とともに松本山のあり方について模索していく。
3．あすなろう鉄道の利用促進
　引き続き、地域に親しまれる赤堀駅をめざし、清掃活動等を継続していく。

〈子どもたちの農業体験〉

〈赤堀駅周辺の清掃活動〉

平成 29 年度地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名	日永地区の観光資源（自然・歴史）の発掘整備によるシティ・プロモーションの推進　第２弾	地区名	日　永

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
生活の各方面（交通・商業施設等）に恵まれ、地域住民が便利というだけでなく、地元を誇りに思い住み続けたいと思える地域。	商業施設、交通手段（広い幹線道路、あすなろう鉄道等）や東海道をはじめとする史跡にも恵まれている。

3. 課　題

自然を楽しむスポットもあり、史跡にも恵まれているが、案内の看板等が無い、あるいは老朽化しているなど、より魅力的な観光資源とするための整備が必要なものが散見される。また、こういった資源を身近なものとして維持管理に協力してくれるボランティアメンバーの確保に対する取り組みが求められている。

4. 実施内容

○歴史の観光資源発掘

日永の歴史年表を作成し（２，０００部）、東海道を訪れる来客へ歴史の案内資料として提供するとともに、センター事業で開催している「歴史講座」の資料として活用した。

ひながふれあいＭＡＰを改訂・印刷（２，０００部）し、日永を訪ねる方々に提供するとともに、東海道案内看板（日永小学校東の東海道沿いに設置）の由来等が不明のため、これを地元団体と協力しながら調査し、富田地区市民センターにある類似の看板を見本に、現物からフィルムを起こす方法で、関係先の承諾を得ながら修復を行った。これにより東海道を訪ね歩く訪問者への情報提供内容が向上できた。

また、ポスター（Ａ２版）はあすなろう鉄道の駅等風雨にさらされる場所に掲示している場合が多く、痛むごとに張り替えていたため、耐候性のある材料で制作し（５０枚）、常に見やすい史跡等の情報提供を行った。

○自然の観光資源発掘

日永梅林の認知度を向上するための事業と、愛着を持って維持管理していくメンバーの養成を図る事業を実施した。（１１月１９日、２６日にて開催）

認知度向上については、昨年度南部アルプス縦走路は整備されたものの導入路等の案内不足で分かりにくいとの意見が地元団体に寄せられており、縦走路案内ＭＡＰ（８，０００部）を作成した。（西日野駅や日永Ｃに配備）、また泊駅に日永梅林の場所等を紹介する説明板を設置することにより梅林の認知度を向上させた。さらに現地を体験してもらう事業として、縦走路を歩いて日永梅林までを案内するイベントを開催した。（１月１４日に開催）

維持管理について、市農業センターの所長、果樹担当職員と講習会の打ち合わせを進めていく中で、今まで剪定や施肥、消毒等のメンテナンスが十分でなかったことが判明したため、育樹の方法習得に重点を置き、維持管理に参加するメンバーを発掘し、定着を図った。

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	年表作成	69,066	フコク印刷工業(有)
	縦走路案内MAP	30,024	「日永梅林・登城山」を復活させる会
委託料	ふれあいMAP(ｺﾝﾊﾟｸﾄ) ふれあいMAP(A2版) 東海道案内看板修復	371,520	日永郷土史研究会
	泊駅への梅林案内看板	248,400	「日永梅林・登城山」を復活させる会
合　計		719,010	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
歴史講座の参加人数	２０名以上	４４名
育樹ボランティア活動の参加人数	２０名以上	２６名
縦走路歩こう会参加人数（1/14）	３０名以上	６０名

7. 成果

剪定講習会での参加者から、梅林に対する愛着が強くなったとの感想を多く頂いた。（植樹にも参加いただいた方は特にこの感想が多かった。）

また、歴史・史跡の認知度を向上し、縦走路を起点に日永梅林へ訪れる機会を増やすことで、地元に対する愛着が強まり、住み続けたいという意識の醸成を図ることができた。

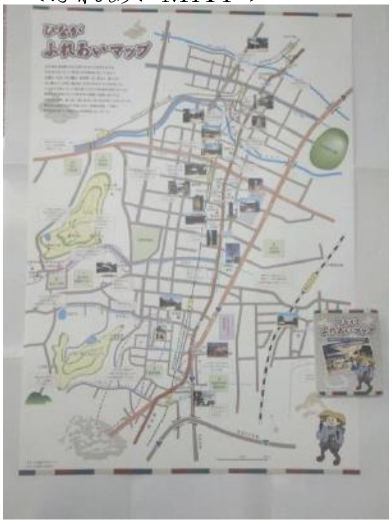
8. 反省点・今後の展開

縦走路は、あくまで日永地区内を中心とした活動であるが、歴史の面でも内部地区をはじめ近隣の地区と密接に関連していることから、他地区との連携した事業の展開ができないか調整していく。（特に内部地区）またあすなろう鉄道や都市計画課とも協力して泊駅を起点とした梅林探訪などを今後企画検討していく。

＜泊駅梅林看板＞

＜東海道案内看板の修復＞

＜ふれあいＭＡＰ＞



右下に写っているのがコンパクト版

＜年表、南部アルプス縦走路ＭＡＰ＞

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	人と人とがつながり合うまちづくり事業	地区名	四郷

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
地域を知り、人とふれあうことで、郷土に関心、愛着を持つ人が増え、住民活動が安定、活発に行われて、住民誰もが安全安心に暮らせることができ、生涯住み続けたいと思う地域になる。	四郷：明治時代には近代産業が発展した地域で風致地区の自然を含め様々な地域資源が存在する。 笹川：大規模集団住宅エリアがあり、外国人居住者が多く多文化共生が課題である。 高花平小林町：高花平は県下初の住宅団地で高齢化が著しい。2 年前小林町は四郷連合を離れ高花平と連合自治会となった。

3. 課　題

四郷：地域の誇りとなる特色ある地域資源が多数存在し、古くからの住民は地縁によるつながりが強い。しかし、新転入または若い世代の住民には認知度が低く地域への思いは希薄になっている。

笹川：県下最大級の団地であり、その大きさから笹川全体とした一体感や地域への愛着心が高くない。特に UR 等の大規模集合住宅の住民は、外国人居住者も多く、近所づきあいがあまりなく、顔の見える関係が作りにくい。

高花平小林町：高花平では高齢化率が高く、市営住宅は老朽化しており空き家が多い中、地域活動を担っている人も高齢化が著しいため、地域活動を維持、活発化し団地再生を目指すためには人材の掘り起しと育成が必要。

4. 実施内容

四郷:四郷ふるさと事業八王子線物語

あすなろう鉄道八王子線がかつては八王子まで続いており、各駅（西日野駅、室山駅、伊勢八王子駅）を中心とした賑やかなまちであったことを地域住民が学習した。

・現西日野駅敷地内に、昔の西日野駅、室山駅、伊勢八王子駅が存在した場所へ誘導する看板を設置した（10 月 25 日）。看板には当時の駅の様子を表す写真を載せた。

・各駅跡地を表す駅名ボード、八王子線を説明するパンフレットを 500 部作成した。学習講座と関係先配布に 200 部使用し、残部は四郷郷土資料館の八王子線コーナーに設置し、来館者に配布していく。

・看板、駅名ボード、パンフレットを利用し、現地を回りながら学習する講座を一般向け（2 月 24 日）（参加者 51 名）と四郷小学校児童向け（1 月 23 日）（参加者 84 名）を開催した。

笹川：笹川住民ふれあい事業

１．子ども交流事業

東西２つの小学校区を持つ笹川の子どもたちの交流を図るため、スポーツ（ストラックアウト）大会を開催した。競技の後は表彰式とともに交流会を実施した。（6 月 18 日）（参加者約 200 名）

２．親子交流事業

子育て中の世代を対象に、憩い、ゆとりを持ってもらうとともに、参加の親子同士の交流を促進するため、子育てに関する講話も入れた未就学の子ども連れでも楽しめる音楽会を開催した。

第１弾　未就学児の親子を対象に親子のふれあいの大切さの話を交えながら、リトミックコンサートを開催した。（10 月 15 日）　（参加者 29 名）

第２弾　小学生以下の児童を持つ親子を対象にクリスマスコンサートを開催し、生の演奏に触れるとともに、参加型の構成により参加者の交流を促進した。（12 月 2 日）（参加者 76 名）

高花平小林町：人材育成スキルアップ講座

子育て世代、高齢世代、それぞれの世代において、スキルアップすることで地域の活性化を図るよう人材育成講座を開催した。

１．親子で学ぶ消費者問題

小学生を中心とした子どもたちとその保護者を対象にして、消費者問題をテーマに講演会を開催した。子どもたちが興味を持つよう、デジタル画面を駆使した講演とした。（2 月 25 日）（参加者 96 名）

また、講演会に参加した親子に呼びかけ、子育て環境に関するワークショップを実施した。携帯電話やスマホの注意点について、パワーポイントを使い勉強し、保護者間で率直な意見交換ができた。（3 月 1 日）（参加者 34 名）

２．楽しく、元気に、健康増進講演会
高齢者に対し、引きこもらず地域活動を通じて社会参加をすることが生きがいとなり、ひいては健康寿命を延ばすことを知ってもらうための講演会を開催した。講演会の後半は交流のためにカフェ体験をしながらの講師を交えた座談会とした。（1 月 14 日）（参加者 80 名）

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	講演会資料・チラシ作成他	27,131	
委託料	四郷ふるさと事業八王子線物語	498,960	四郷ふるさと実行委員会
	笹川住民ふれあい事業	406,912	笹川地区協議会 四日市市(市マイクロバス借上げ)
	(高花平小林町人材スキルアップ講座) 親子で学ぶ消費者問題 たのしく、元気に、健康増進講演会	 200,000 40,000	 高花平地区社会福祉協議会 NPO 法人日本成人病予防協会
合 計		1,173,003	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
四郷:学習講座(一般向け)参加人数	40 人	51 人
笹川:交流事業参加人数	300 人	305 人
高花平小林町:講座参加延べ人数	200 人	210 人

7. 成果

四郷：鉄道からさらに地区の歴史に興味をもち、地域への愛着心と関心が育まれた。子どもを連れた家族や昔の八王子線を利用していた人などがいて、興味を深めてもらうことができた。
笹川:小学校統合を前にした小学生や就学前の子ども、その保護者たちの交流とともに、子育て中の保護者のレスパイトが図れた。 また、笹川学童保育会の児童たちも参加し交流した。
高花平小林町:参加した子どもや保護者は携帯電話やスマホの利用に対する注意意識がアップした。また、高齢者は健康増進から地域参加への意識がアップした。

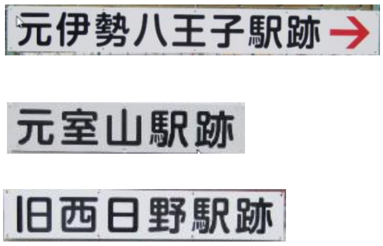
8. 今後の展開

四郷：四郷には、まだたくさんの学ぶ価値のある歴史や地域資源があり、住民の地域のことを学習する機会を増やすことにより、地域活動にも関心を持ってもらい参加を増やす。
笹川：顔の見える関係づくりを促進し、地域行事や地域活動の参加者を増やし、まちの活性化につなげる。

高花平小林町：地域に住む人たちが、それぞれの課題に対しスキルアップを図ることにより、継続した強いまちづくりにつなげる。

【四郷】四郷ふるさと事業八王子線物語
＜学習講座＞

＜西日野駅設置看板＞　＜パンフレット＞　＜駅名ボード＞



【笹川】笹川住民ふれあい事業
＜子ども交流事業＞
スポーツ（ストラックアウト）大会　交流会

＜親子交流事業＞
リトミックコンサート　クリスマスコンサート

【高花平・小林町】人材育成スキルアップ講座
＜親子で学ぶ消費者問題＞

デジタルショー講演会

ワークショップ

＜楽しく、元気に、健康増進講演会＞

講演

座談会

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	次世代へ～歴史・自然・暮らしをつなぐまち～事業	地区名	内　部

1. 望まれる地域の姿

歴史や自然、暮らしなどの資産を活用した事業を地区が一丸となって実施し、観光資源としての活用も図りながら、地区の活性化が図られている。また、地区住民が参画し作成したものが地区内の行事等で普及・定着し、他地区に誇れるものとなっている。

2. 地域の現状

市内の内陸部に位置し、将来的に人口は増加傾向にある。高齢化率は市内では低い。

従来からの住宅地や新たな住宅開発が多数行われており、新旧住民が混在しコミュニティの希薄化が進んでいる。

3. 課　題

内部地区まちづくり構想における本地区の将来像「次世代へ 歴史・自然・暮らしをつなぐまち 内部」の実現が望まれている。また、昨年度実施した四日市あすなろう鉄道と旧東海道にスポットをあて行った事業に加え、内部地区におけるその地区以外への事業展開が望まれている。

4. 実施内容

① 史跡案内立看板の整備（5 月から 10 月）

平成 27 年度作成した「ふるさと探訪マップ」に掲載した史跡のある場所に、史跡案内立看板（9か所）および史跡場所表示看板（2か所）を整備した。

まちづくり推進協議会内にワーキンググループを立ち上げ、計7回のワーキング会議を開催し、立て看板設置場所や掲載内容等を検討し整備を行った。

② うつべ自慢の郷土めしの普及（5 月から 10 月　小冊子の作成）

内部地区に古くから作られている料理や特産品を用いた料理 9 品目を選定し、冊子の前半では、レシピとその料理の由来を掲載、後半では「うつべと食文化」をテーマにアラカルト風にまとめた「うつべ自慢の郷土めし」の小冊子（3000 部）を作成した。

作成にあたっては、まちづくり推進協議会内にワーキンググループを立ち上げ、計10回のワーキング会議を開催し、冊子をまとめた。

③ 文化祭における「うつべ自慢の郷土めし」の啓発（11 月 5 日開催）

内部地区文化祭で、「うつべ自慢の郷土めし」小冊子配布やパネル展示のほか、実際に調理した「郷土めし」を振る舞った。婦人会を中心に「郷土めし（押し寿司、大名炊き、蒸し餅）」を準備し、パック詰めしたものを250食作成した。当日は、2 時間ごとに3回に分けて抽選で当たった方に配布、抽選ではずれた方は冊子の配布（500 部）を行った。

④ 歴史・自然探訪ウオーキング大会の実施（11 月 19 日開催）

総合型地域スポーツクラブうつべ☆スター、まちづくり推進協議会、内部地区市民センターが協働で、内部地区の史跡や豊かな自然をめぐるウオーキング大会を実施した。（参加者123名とスタッフ75名、計198名）

史跡案内立看板前（9 か所）では、ワーキンググループメンバーが参加者に対して史跡の案内を行った。

参加者に対して、「うつべ自慢の郷土めし」の小冊子配布し、ゴール会場ではパネル展示を実施するとともに郷土めし「報恩講汁、味おにぎり」の振る舞いを行った。

④ うつべ探訪講座等の実施（3 月 3 日、3 月 10日開催　2回講座）

（1）地区の歴史や自然の魅力、（2）郷土芸能（うつべ音頭・はばたけ！うつべ）と「うつべ自慢の郷土めし」の2テーマについて、地域住民が講師となった座学（2回講座）と現地訪問、調理実習を実施した。

参加者は 3 月 3 日 45 名（スタッフは別で 10 名）、3 月 10 日49各(スタッフは別で 23 名)。

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		**支出金額**	**支出先**
需用費	うつべ自慢の郷土めし印刷	235,440	株式会社イヤマ印刷
	郷土めし紹介パネル印刷	93,636	株式会社イヤマ印刷
	歴史・自然探訪ウォーキング消耗品	75,188	株式会社四日市事務機センター 有限会社青商店
	うつべ探訪講座消耗品	185,792	株式会社ヤマダ電機四日市営業所 教育産業株式会社三重営業所 三重北勢地域地場産業振興センター 株式会社四日市事務機センター 株式会社アビ・コミュニティ 有限会社青商店 株式会社コメリ
委託料	史跡案内看板設置	691, 200	ＳＳデザイン設計・服部
	「うつべ自慢の郷土めし」のふるまい	190, 080	内部地区まちづくり推進協議会
合　計		1,471,336	

6. 目標及び実績

指標	**目標**	**実績(見込)**
歴史・自然探訪ウオーキング大会　連携団体数	10団体以上	11団体
うつべ探訪講座、郷土めし普及講座の参加者数	各50名	55名（スタッフ 10 名） 72 名（スタッフ 23 名）

7. 成果

内部地区まちづくり構想の目指す本地区の将来像「次世代へ～歴史・自然・暮らしをつなぐまち～」の実現のため、歴史や豊かな自然環境、郷土芸能、自慢の郷土めしをテーマに、より多くの団体が事業に参画し連携を深めながら進めていくことで地域活性化が図られた。

8. 今後の展開

地区の歴史や自然の魅力、郷土芸能（うつべ音頭・はばたけ！うつべ）、自慢の郷土めしを住民自らが継承していくための体制整備として、地区文化祭での定着や公民館講座としての導入等を図っていく。

〈史跡案内立看板〉

〈うつべ自慢の郷土めし〉

〈歴史・自然探訪ウオーキング大会〉

〈うつべ探訪講座〉（第1回）

（第2回）

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	活気あふれる住みよい町推進事業	地区名	塩　浜

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
塩浜地区の歴史・文化を大切にしながら、子供から高齢者まですべての住民が安心していきいきと暮らす。	近年は高齢化が進展し、元気あふれる子供たちや若い人が減り、町の活気が失われつつある。

3. 課　題

当地区は第１コンビナートを始めとする工場群や運送業等の事業用地が広がり、子どもたちが自然や農業に接する機会が乏しい。塩浜小学校には、かつて地域住民が力を合わせて整備したビオトープがあるが、近年、手入れがほとんどされておらず荒れぎみになっている。

地区内には多くの歴史遺産や獅子舞などの伝統芸能がある。また、地域で親しまれている「塩浜音頭」や 28 年度に地域で新たに制作した「ニュー塩浜音頭」もある。こうした地域の財産を広く住民が再認識するとともに、親しみを持てるように振興し、次世代に伝承していくことが必要である。

当地区は、高齢化率が市内でもとりわけ高く、一人暮らし高齢者や老々世帯が多いなど、地域の中での見守り体制の強化や介護予防への取り組み支援が求められる。

地区全体が臨海部に位置し海抜が低いうえ、鈴鹿川や第１コンビナートに隣接しており、津波・洪水の自然災害に加え企業事故等の災害も危ぶまれる地域であることから、地区全体で適切な災害対応ができるように意識啓発や平常時からの準備、防災への女性の参画が必要である。

4. 実施内容

(1)　塩浜の自然体験

①農業体験教室（キッズ農園）

塩浜小学校の協力を得て校庭の一角の放置された花壇を利用し、地域交流と自然学習の一環として全校児童 180 人を対象に農業体験を行った。体験では、地域ボランティアの協力で６月にサツマイモの植え付け体験と座学を行い、11 月に２学年ごと３回に分けて芋掘りを行った。2 月 26 日には同じ場所でジャガイモ栽培を開始し、翌年度のサツマイモ植え付け前に収穫を行う。

農業体験にあたって、長年放置された花壇で耕作ができるように、地域の農業者にトラクターでの耕起協力をもらい、植え付けに関してはＪＡ職員に技術指導を受けた。三菱ケミカル㈱は、子会社において工場内の植栽の剪定くずを利活用した堆肥を製造しており、今回、地域貢献の一環でこの堆肥の無償提供を受けた。

②ビオトープの環境整備・自然観察

地域住民 10 人の協力により、3 月 18 日に手入れが不十分な塩浜小学校のビオトープをきれいにするため、落ち葉や藻の除去を行った。カキツバタ、花菖蒲、水芭蕉などの水生植物の植え付けも行った。また、ビオトープの周辺にステップストーンを据え付け、散策しやすいように整備した。有志による今後の継続的な協力も求め、ビオトープの環境改善に取り組む体制が整った。

③鈴鹿川河口での自然学習会の実施（いきものたんけん）

地域住民や塩浜小学校と連携し、鈴鹿川河口付近の安全な干潟において、鈴鹿川の生態系に詳しいボランティアを講師に迎え、希少なカニや河口域に生息する魚類などの自然学習会を 8 月 21 日に行い、塩浜小学生とその保護者計 27 人の参加があった。

(2)　地域の資源 活用・伝承

●次世代への地域の文化遺産の保存・継承

①　塩浜のビデオ制作

塩浜の歴史や文化、季節折々の地区のイベント等を次世代に残すため、地域のボランティアの協力によりビデオに収録した。また、専門業者によるドローンでの空撮を委託し、昭和四日市石油㈱の高さ 200mの煙突の上部からの撮影も行った。ビデオ編集ができるボランティアによりテーマに分けてビデオＤＶＤを作成した。

②　「120 枚の写真で見る塩浜の写真集」の出版と写真展の開催

次世代に塩浜の現在の姿を伝承できるように、塩浜の自然景観、、まちなみ、行事等を市制 120 周年に合わせ 120 枚の写真により構成された写真集を 1 月 10 日に発刊し、地域住民や学校、関係機関に配布した。（作成部数６００部）

この写真集の完成を広く周知するため 1 月 25 日に発刊記念ティーパーティーを行った。

また、塩浜の魅力を広く地区内外に発信できるように、この写真の中から特に印象的な作品 24

点を写真パネルにして、平成29年11月開催の三浜文化会館開館1周年記念事業「こどもとおとなのアートまつり」で展示を行った。

＜配布先＞

・地区住民（70歳以上高齢者への記念品等）、各自治会、南部ブロック連合自治会、学校、図書館、関係機関、編集協力者等

③ 塩浜小学3年生30名を対象に、10月13日に地区内のフィールドワークを実施した。地元有識者や関係機関の職員からの説明を受け、歴史的価値のある塩浜の名所・旧跡、磯津漁港、普段立ち入ることができない広大な三田埋立地などを探訪した。

④塩浜の歴史や地域の出来事に詳しい地元有識者２名を講師に、塩浜地区で最も古くから人が暮らすようになった大里町や塩浜の歴史での大きな出来事をテーマにした歴史講座を2月15日に塩浜地区市民センターで開催し、30名の参加があった。

●三浜文化会館での多世代交流イベント

「こどもとおとなのアートまつり」において、コンビナート企業4社による小学生と保護者を対象とした移動実験室（ミハマ・キッズラボ）を開催し、約100名の参加者があった。

会場内での来場者の回遊性を高め、子どもがこのまつりをより楽しめるように館内を巡るスタンプラリーを実施し、約400名が参加した。

塩浜地区の専用スペースである地域活動室において、広い世代がゆったりくつろぎ交流できるようにふれあいサロン「ほっと」を開催し、300人の参加があった。

「塩浜の未来」と「環境」をテーマに塩浜小学校児童を対象とした絵画コンクールを行い、出展された71点すべてを、キッズスペースや創作スペ―スにおいて展示した。

③新旧「塩浜音頭」の振興

新旧の「塩浜音頭」の振興するため踊りの講師による出前講習会を、塩浜こども園、塩浜小学校、塩浜中学校、塩浜地区市民センター、三浜文化会館の5会場で実施した。地域住民や児童、生徒等約400名の参加があり、運動会や地区文化祭等の場で地域住民と子どもたちが一緒に踊った。

(3) 地域での介護高齢者等への見守りの支援

①初歩的な介護教室の開催

社会福祉法人風薫会やユマニテク医療福祉大学校と連携し、塩浜地区市民センターを会場に地域住民を対象とした介護教室を開催した。教室は計6回開催し、基本的な介護知識や認知症を学んだり、特別養護老人ホーム「アリビオ」での交流カフェを行い、延べ約370名の参加があった。

②若年者による認知症高齢者への見守り支援

認知症高齢者の見守り体制を強化するため、塩浜在宅介護支援センター、南地域包括支援センター、市介護・高齢福祉課と連携し、「認知症高齢者サポーター養成講座」を大橋学園高校の希望者30名（7月10日）、塩浜中学校の土曜授業において全校生徒、保護者、教師、地域住民130名（6月17日）を対象に実施し、若年者による高齢者の見守り支援を推進した。

(4) 地域の防災力の向上

①防災での女性力の導入

防災活動への女性の参画に向けて、県地区の女性防災活動グループを講師に迎え、女性を主な対象とした研修会を2月14日に実施し、45名の参加があった。研修では災害時に役立つ段ボールトイレや段ボールベッドの製作体験や避難所生活で必要となる知識の習得を行った。

②防災訓練での模擬避難所体験

防災協議会、防災コーディネーター、消防分団の連携により、小学生を対象に塩浜学校の体育館で泊まり込みでの避難所宿泊体験を3月24日（土）、25日（日）に実施し、小学生6名、スタッフや協力者 21名が参加した。この体験では災害時に防災に関わるスタッフの実地訓練も兼ねて地震体験車、段ボールやクッション材での居住スペースの製作体験、炊き出し訓練、ＡＥＤによる救命訓練等を行った。

③指定避難所への「かまどベンチ」製作

防災協議会5名、地域住民10名、中学生とＰＴＡ20名の連携により地域の交流、防災意識の向上を図るため、普段はベンチとして使いながら、災害時には座面を外すだけで大釜での煮炊きができる「かまどベンチ」2基を塩浜中学校の中庭に製作した。2月24日に基礎工事、3月1日と3月14日にレンガ積みと木工事を施工した。

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	塩浜の歴史教室講師	22,000	地元講師
需用費	塩浜の歴史教室開催	9,328	芳文堂
	高齢者の地域での見守り強化	9,328	芳文堂
委託料	農業体験教室	43,000	塩浜まちづくり協議会
	ビオトープの環境整備	35,000	〃
	鈴鹿川での自然教室	77,000	〃
	歴史文化等のビデオ制作	230,000	〃
	多世代交流イベント	144,000	〃
	新旧塩浜音頭の振興	90,000	〃
	塩浜の写真集　制作･出版	354,960	〃
	初歩的な介護教室開催	50,000	社会福祉法人風薫会
	防災での女性力の導入	55,000	塩浜地区防災協議会
	夜間の模擬避難所体験	150,000	〃
	かまどベンチ製作	132,940	〃
使用料及び賃借両	歴史遺産探訪自動車使用料	32,400	㈱中日臨海バス
合　計		1,434,956	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
多世代交流イベント参加者	300 人	約 700 人
認知症高齢者サポーター数	200 人	160 人

7. 成果

自然に親しむ機会の乏しい塩浜の子どもたちが地域の自然環境や農業に触れることで、教室では得られない知識の習得につながった。

塩浜の文化･歴史の現在の姿を記録媒体に保存することや歴史教室や旧跡探訪の実施によって地域の資源を伝承していくための一助となった。

若年者に対して認知症高齢者への見守りの意識を醸成することで、高齢者が安心して暮らせるまちづくりに寄与した。

各事業の実施において地域住民の協力を得ながら進めていくことにより、各関係団体の連携強化や新たな人材の発掘、地域社会づくり推進の契機となった。

8. 今後の展開

各事業の実施をしていくうえでの協力体制が一過性のものに終わらず、今後の継続的な地域活動につながるような工夫をしていく。

多くの事業に取り組んだが、関わった顔ぶれは重複している面も見られ、女性や若年者を始めとする次代の地域を担っていく人材の発掘・確保、組織化には継続的な努力が求められる。

地域貢献に関心の高い人材も見受けられることから、今後、深刻さを増す高齢化や防災・減災への対応・意識啓発についても、様々な機会を通じて潜在的な人材を見出し、地域活動に呼び込む工夫をしていかなければならない。

学校との連携によって事業を進めていくには、早期に学校側と調整をしていく必要がある。

【各事業　取組内容　記録写真】

・農業体験教室（キッズ農園）

（２学年ごとの収穫作業）

・ビオトープの環境整備

・鈴鹿川河口での自然学習会（いきものたんけん）

・塩浜のビデオ制作

・120 枚の写真で見る塩浜の写真集出版
（編集会議）

・歴史遺産探訪（フィールドワーク）

・塩浜の歴史教室

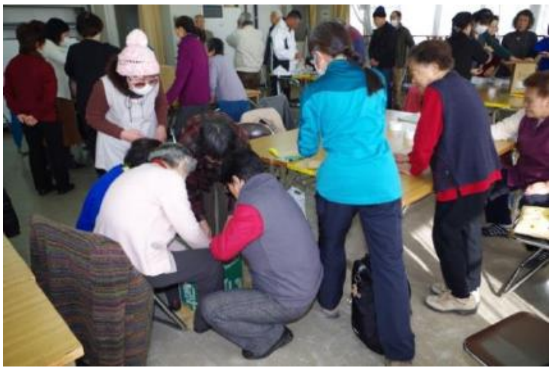
・三浜文化会館での多世代交流イベント
（ミハマ・キッズラボ）

・新旧「塩浜音頭」の振興

・初歩的な「介護教室」の開催

・若年者を対象とした
「認知症高齢者サポーター養成講座」の開催

・男女共同参画による
「防災講演会」の開催



・塩小体育館での模擬避難所体験

・塩中でのかまどベンチ製作

（塩中の生徒による座面製作）

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	自然・文化を大切に～つながろう小山田～事業	地区名	小山田

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
地区内における各町の人・モノ・情報の交流がより活発となり、地域がより活性化されることで、本市が掲げる「元気都市四日市づくり」を地域から実現する。	地区の面積が広いうえに丘陵地域で起伏が激しいこともあり、町間の人的交流が希薄な状況がある。

3. 課　題

・事業の実施を通じ、地域におけるまちづくり人材の発掘と育成やネットワーク化を図る。
・自然や文化をはじめとした地域資源の発掘・発信により、地域の魅力を地元の人が再認識する。

4. 実施内容

平成28年度の地域活動費で作成した「小山田つながるMAP(以下、マップ)」を活用した事業に取り組み、センターが地域の各種団体と連携を図りつつ新たな人材の発掘と育成に努めた。

（１）シンボルツリーの保存・継承
・保存継承のための樹勢回復工の実施（土壌の改良、幹洗浄）
・担い手づくりのための講習会の開催（2月22日実施、参加者数25人）

（２）マップを活用したウォーキングの開催（3月10日実施、参加者数65人）
・小山田地区出身、7人制ラグビー日本代表で本市の観光大使である坂井克行選手を招聘
・プログラムは、①坂井選手による講演会、②山田町内のマップ掲載のポイントを散策（地元の人による解説）、③ラグビー体験、④交流会

（３）解説板等の設置（8枚／6町と１センター）
・マップに掲載された小山田地区の名所旧跡等のスポットに解説板を設置した。
なお、看板製作は業者に委託をするが、設置は地元の人とセンター職員で行った。
【設置スポット／設置場所】八幡社旧跡／山田町、小山神明社／小山町、
不動尊・不動滝（道標2か所）／西山町、和無田池・マンボ／和無田町、
須賀神社／六名町、神明社／堂ヶ山町、おやまだ桜／小山田地区市民センター

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	マップを活用したウォーキング	50,000	講師:坂井克行氏
需用費	シンボルツリーの保存・継承	5,046	㈱コメリ
	マップを活用したウォーキング	117,842	スズカン㈱、イオン四日市尾平店　他
	解説板等の設置	13,218	㈱コメリ
役務費	マップを活用したウォーキング	3,000	㈲ジャパン総合プロ
委託料	シンボルツリーの保存・継承	498,960	東海物産㈱三重支店
	マップを活用したウォーキング	17,000	小山田地区社協
	解説板等の設置	314,280	SSデザイン設計・服部
合　計		1,019,346	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
ウォーキング参加者	100 人	65 人
担い手づくり講習会参加者	10 人	20 人

7. 成果

・おやまだ桜の担い手づくり講座では、受講者が桜を自分の町の樹木に置き換えて貴重な樹木を大切にするよう町内でも呼びかけていきたいという話を聞くことができたのが印象的であった。
・ウォーキングイベントでは、目標の数値には及ばなかったものの、地域の人同士、また、地域の人とセンターなど人間関係の構築には大きく寄与できたものと考えている。
・地元メディアにも取り上げられ、ＰＲ効果もあったものと考える。

8. 今後の展開

・より幅広く多数の参加者が集まれるよう、事業の内容や周知の方法に工夫が必要である。
・特に若い世代がより参加しやすい方法について学校や保護者等とも相談しながら実施する必要がある。
・平成 29 年度に策定されたまちづくり構想の実現に向けた地域の取り組みがより効果的に行えるよう、センターと地域で十分に連携を図って事業を進める。

＜シンボルツリーの保存・継承＞

樹勢回復(土壌改良)

樹木医による講習会

＜マップを活用したウォーキング＞

坂井克行選手の講演

山田町内散策

＜解説板の設置＞

ヒメコウホネ、マンボ(和無田町)

八幡社旧跡(山田町)

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）　実績報告書

事業名	地域資源を活用した魅力あるまちづくり、ひとづくり推進事業	地区名	川島

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
豊かな自然、歴史、人材などの地域資源を守り生かしつつ、それら資源も活用しながら住民同士が交流を深め、互いに支え合い、安心して住み続けられる地域	・豊かな自然のほか、歴史的価値の高い旧跡等も多く残っている ・旧来からの集落や昭和40年代に造成された団地等では急速に高齢化が進んでいる。また、農業従事者の高齢化に伴い農地の耕作放棄が増加している。 ・地域住民によるまちづくり活動は活発に行われているが、後継者不足に悩んでいる。

3. 課　題

・地区内には、歴史的価値の高い旧跡等も多く残っているが、その中には手が入らず徐々に傷んできているところや、地域住民にあまり認知されていないところがある。
・高齢化が進む中、昨年度に「地域での支え合い組織」を立ち上げたところであるが、年々一人暮らし高齢者や高齢者夫婦世帯が増えてきていることから、地域で支え合える体制を更に充実させ、誰もが安心して暮らせる環境を整備していくことが必要である。
・高齢化は、当地区の主な産業である農業にも大きな影響を及ぼしており、地区内において耕作放棄地が増加してきていることから、優良な農地を維持し、継承していける人材を育成していくことが必要である。
・まちづくりに関わっている中心メンバーが高齢化してきており、担い手不足が課題となっている。そうした中、今後もまちづくりの活動を継続、発展させていくためにも、若い世代の住民などを巻き込み、多様な人材が意思決定の場に参画できる体制づくり、環境づくりを進めていく必要がある。

4. 実施内容

１．かわしま散策マップの作成、史跡めぐりウォーク等の実施
　魅力ある地域資源を住民に知ってもらい、愛着を持ってもらうために地区内の名所・史跡を掲載した散策マップ「川島ふるさと発見ＭＡＰ」を作成し配布を行った。また、郷土史などによる歴史講座や作成したマップを利用した史跡めぐりウォークを開催した。
（マップ：3,000部作成、組回覧及び地区内各種団体などへ配布、市民センター及び地区イベントにて無料配布、講座等：10～12月に全4回で実施、延べ参加者170人）

２．里山保全活動への支援
　地区イベント（里山フェスタ）にあわせ、まちづくり構想に位置付けられている大門山周辺の繁茂した竹の伐採や散策路の整備などの里山保全活動を、里山を愛する会および三滝中学生や四日市大学生を含めたボランティアとの協働で実施した。
（10/25～11/26　延べ参加者92人）

３．川島農業体験教室の開催
　川島土地改良区内の農地を活用し、川島小学校２年生（130人）及び一般参加者を対象とした、ダイコンやカブの農作業を体験する教室を、地元農家やボランティア、老人会などの協力も得ながら開催した。
（9月 種まき、10月 間引き、11月 収穫、延べ参加者515人）

４．地域人財バンクへの支援
　昨年度に立ち上げた地域での支え合い組織「ちょボラかわしま」と連携し、新たな人材の発掘や既会員のレベルアップを図るための講座など（ボランティア入門講座、付き添い・見守り体験を兼ねたお買い物ツアー）を開催した。
（2月に全2回で開催、延べ参加者数79人）

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	川島の歴史講座と史跡めぐりウォーク講師	50,000	大学教授ほか(3回)
	ボランティア入門講座講師	11,000	介護福祉士(2回)
需用費	コピー用紙	2,980	㈱四日市事務機センター
	フラットファイル	511	伊勢オフィスクリエート㈱
	カラー用紙、印刷機インクほか	51,991	㈲青商店
	散策マップ印刷	495,720	フコク印刷工業㈲
	史跡めぐりウォーク用資材	37,800	㈱星光堂
	里山整備用資材	69,886	㈱コメリ
	里山整備用資材	10,692	オカダ農機㈱
役務費	傷害保険料	6,000	㈲ジャパン総合プロ
委託料	農業体験教室開催	190,000	川島地区まちづくり協議会
	史跡(道標)復旧・設置	43,200	㈱新田組
使用料及び賃借料	バス借り上げ料	39,960	三重交通㈱四日市営業所
	仮設トイレ レンタル料	35,540	㈱四日市市生活環境公社
備品購入費	マイクスピーカー	55,080	教育産業㈱三重営業所
合 計		1,100,360	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
史跡めぐりウォーク、農業体験教室等 延べ参加者数	600 人	777 人
ボランティア入門講座等 延べ参加者数	100 人	79 人

7. 成果

・地域の魅力を再認識してもらうことで、地域への関心や愛着心を向上させるとともに、住民同士の交流を通じて、住民間の繋がりや絆を強めることができた。
・地域内での支え合いのための人づくり、組織づくりを支援することで、安心して生活し住み続けていけるまちづくりや自分たちが住む地域を自分たちで守っていくという意識の醸成につながった。

8. 今後の展開

・作成したマップも活用しながら引き続き地域の魅力について情報発信していくとともに、今後も農業体験などの地域資源を活用した事業を実施していく。
・保全活動については、参加者を増やしながら地域の中で継続していける体制を整備していくとともに、今回実施した里山だけでなく更に鹿化川沿いの桜保全なども含め拡大させていくことを検討していく。
・途切れのない人材の発掘・育成が図られるための環境づくりや仕組みづくりを引き続き支援していく。

川島の歴史講座

史跡めぐりウォーク

里山保全活動

農業体験教室

ボランティア入門講座

お買い物ツアー

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	地域団体活動の活性化と担い手育成事業	地区名	神前

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
地域活動や地域社会づくりに多様な世代が参画できる社会になること	１．地域づくりマイスター・減災アドバイザーの活躍の場が不足している。 ２．次世代を担う人材の発掘・育成ができない。 ３．地域の防災に男女共同参画の視点が不足している。

3. 課　題

１．地域社会づくりの重要な担い手であり、かつ地域の社会資源でもある地域づくりマイスターや減災アドバイザー養成講座の修了者に活躍の場が不足している。
２．地域団体等の活動への住民の理解と関心を深めるため、昨年度からホームページのリニューアル作業中であるが、団体の活性化と将来的な後継者育成、また、ホームページの管理運営を行う人材育成等が課題である。
３．男女共同参画の視点から地域の防災を見直すべく立ち上げた女性グループの活動を支援し、神前地区全域での取り組みにしていく必要がある。

4. 実施内容

１．地域づくりマイスター・減災アドバイザースキルアップ事業

養成講座を修了し、地域社会づくりや防災・減災の重要な担い手としての役割が期待される地域づくりマイスター２名と減災アドバイザー３名を中心に、地区内を再検証し、地区市民センター館長等も参画する編集会議を５回実施（8/3、10/2、11/3、1/22、1/29 実施）し、名所・旧跡などのほか指定避難所等の防災情報、自主運行バス神前高角線の路線やバス停などの情報を載せたマップを作成した。（３，５００部）

マップは地区内全世帯および関係機関に配布し、地域の住民にあらためて地域の魅力を見直してもらい、あわせて防災・減災情報として、今後も活用していく。

具体的には、主要な駅やバス停等に作成した携帯用マップを配置してもらい、地区外の方にも神前地区の魅力を PR し、自主運行バス神前高角線の利用促進と神前地区を訪れてもらうきっかけとする。

２．地区ホームページ活用による地域団体活動活性化事業

平成２８年度より、地域住民が地域団体等の活動への理解と関心を深めるため地区ホームページの再編を行っているが、さらに活動を掲載する団体を増やすことで、地域住民に団体の活動をPR・周知して、将来的な後継者育成と団体活動活性化の一助とする。

また、効果的な情報発信のツールとして地区ホームページを活用し、掲載内容の企画や管理運営を行うための人材育成を支援する。そのため、新たにホームページに掲載を予定している団体を中心に１７名を対象として、各団体責任者説明会（3/14 実施）、ページ管理者講習会（10/19 実施）、動画作成研修会（9/9～9/10）を実施した。

地域団体主体での企画や管理運営を行う人材育成を支援するため、地域社会づくり推進委員会への委託により行った。

３．地域防災への女性参画推進基盤整備事業

大規模災害時に地域の安全・安心を守るためには女性の声も欠かせないことから、平常時より男女共同参画の視点から災害対応について理解しておくことが重要である。

平成２８年度に女性の視点から地域防災・減災のあり方を見直すことを目的に立ち上げた女性グループの活動を神前地区全域に広げるきっかけづくりのため研修会等を実施した。

神前地区全自治会から募集した参加者に対して、

①　男女共同参画の視点から見た防災について、専門家の講演会とワークショップを開催した。
（12/6　実施。講師：減災と男女共同参画　研修推進センター　共同代表、早稲田大学地域社会と危機管理研究所 招聘研究員　浅野幸子先生、参加人数：女性 20 名、男性 11 名、計 31 名）

②　男女共同参画の視点から見た備蓄や避難所設営についての研修を開催した。
（3/19 実施。講師：危機管理室、参加人数：女性 20 名、男性８名、計 28 名）

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	防災セミナー講師報償費	53,120	減災と男女共同参画研修推進センター共同代表　浅野幸子さん
需用費	防災セミナー消耗品	91,368	ダスキンレントオール四日市ステーション
		7,899	㈲青商店
	ふるさとマップ印刷	600,480	㈱ナミカワ
委託料	ホームページ作成人材育成委託	92,720	神前地区地域社会づくり推進委員会
合　計		845,587	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
地域情報マップの作成、配布	3,500 部作成 全世帯・関係機関へ配布	3,500 部作成 全世帯・関係機関へ配布
地区ホームページに活動を掲載している団体数	20 団体	24 団体
女性グループの活動研修会の参加者数	30 名	40 名

7. 成果

・マイスター・アドバイザーの企画立案能力や指導力が向上した。
・マップ作成やホームページ掲載団体増加により、地域や地域活動への住民の関心が高まった。
・男女共同参画の視点から地域防災の見直しの取り組みが神前地区全域に広がる基盤となった。

8. 今後の展開

・防災講演会が台風の影響で延期となり、3 回の予定が 2 回の開催となってしまった。
・魅力や防災・減災、地域活動への住民の関心が高まり、地域活動を担う新たな人材の参画が期待できる。

「地域づくりマイスター・減災アドバイザースキルアップ事業」

「地域防災女性参画基盤整備事業」
女性のための防災・減災セミナー

第１回（12/6）

第２回（3/19）

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	心のかよう緑豊かなまち桜へ	地区名	桜

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
桜地区では智積養水や一生吹山、矢合川で整備・保存活動が行われており、今後も自然を活かした、地域住民の憩の場、ふれあいの場として、利用できることが望まれている。 また、地区の高齢者が安心して生活できる見守り体制や各種活動を継続実施する人材確保のための方策の構築が望まれている。	智積養水や一生吹山、矢合川では、自然環境の保存活動が行われているが、参加者の減少がみられる。 桜地区でも、高齢者の人口比が高く、徘徊や、急病などの時の対応や各種事業の継続実施に苦慮している状況である。

3. 課　題

住民の方が智積養水や一生吹山、矢合川で自然環境の整備・保存活動やイベントを行っても、変化が乏しく、参加者が固定化されている。また、桜花台地区では竹藪を利用した散策路の設置も計画されており、昨年整備を行った矢合川の花壇整備から散歩道が繋がるよう期待されている。最近は桜地区の多くの山で、竹が繁殖し竹害も発生してきており管理の問題も発生してきている。

桜地区でも、高齢者の人口比が高く、徘徊や、急病などの時、家族や親戚などへの連絡先が解らずその対応や各種事業の継続実施に苦慮している状況である。

4. 実施内容

◎環境整備事業

矢合川では、平成２７年度に館長権限予算を利用し花壇１２０ｍの整備を行った。その後、みどりの少年隊、たのし会などが花壇の植栽などを継続的に行い、矢合川花壇付近を散策する方が増えた。現在も散策路として住民に親しまれ、多くの住民の方が散策路を利用しているが、散策路の約２０ｍ程度の水路が蓋も無く、足を踏み外せば大怪我にもつながるような状態で残っており、その危険を排除するため、グレーチング等で蓋の整備を行い、住民の方が安心して散策できるよう整備を行った。

桜花台グリーン隊は、地区の環境整備のため桜花台地区から、矢合川散策路へ繋げる散策路整備（竹藪の伐採やチップ化など）を２年ほど前から１０名程度で行っており、本年度に全体が完成し、矢合川の花壇まで散策でき、利用者もさらに増えた。

◎憩いの場づくり事業

桜地区でも、最近は山が荒れ、竹が生い茂っているところが多く見受けられるようになってきている。そこで、竹の有効利用、竹害対策の一つとしての働きかけの他、地域住民の憩いの場を作るため、竹灯りの展示を行うこととした。竹灯りの製作や展示については、地域住民のボランティアを募集し、地元の方と力を合わせ３００本の展示を行った。また当日は、桜地区の各種団体の力を借りて、まちぐるみのイベント実施となるよう調整を図り行うことができた。

竹灯りと夜空の観望会は、１１月４日に行い、CTY の放送や新聞などに掲載され、大好評で、今後も継続してほしいとの要望もいただいた。当日は、一般参加者約５００名　協力ボランティア５０名(竹灯りボランティア３０名、一般ボランティア２０名)で実施した。

◎人材育成発掘事業

桜地区も市全域と同様に高齢化が進み、ボランティアとなって地区を支援したり、見守ったりする方が減少してきており、今後の地域包括ケアシステムへの対応や高齢者の徘徊への対応が難しくなってきている。そこで、地域のボランティア人材の発掘のため、地域力アップ講座「咲楽」を５回開催した。この講座では自分に向いているボランティアは何かなどをさぐり、地区ボランティアとしての参加者を増やす試みを行った。実活動としては、講演会や勉強会などを５回ほど実施し３１０名の方が参加され今後に繋げる取組ができた。

第１回	基調講演「これからの住民主体活動とは」	８月２７日	９０名	
第２回	「住民主体活動が地域を耕す」	１０月　１日	６２名	
第３回	市内で実践している団体の活動紹介(Ⅰ)	１１月１１日	６５名	
第４回	市内で実践している団体の活動紹介(Ⅱ)	１２月　９日	４８名	
第５回	「桜地区で私たちのできることは」	１月１３日	４５名	５回分計３１０名

◎高齢者見守り事業

桜地区では、平成２９年４月から２件の高齢者問題が発生している。２件とも高齢者の徘徊で、このような出来事は、今後も増加することが予想される。高齢者の方やその子どもさんなどの理解の上

で、徘徊しそうな方や認知症が疑われる方のデータを集め、高齢者を見守っていく事が地区では重要なこととなってきている。

その対応として、高齢者見守り事業については民生委員協議会を中心に高齢者の見守り講座や桜地区で徘徊しそうな方や認知症が疑われる方がいる家族の方の対応先を記載したパンフレットを製作し地区内へ配布した。同時に、理解が得られた高齢者の方のデータを民生委員で蓄積して行く試みを行った。これにより、家族内で認知症や徘徊などで困った場合を含め、その家族が認知症や徘徊などにスムーズに対応できるように地域が支援を行った。事業では介護制度の案内を含め、相談などを地域で対応していくことをPRするチラシを作成配布するとともに、桜６５見守りネットワークという団体を民生委員協議会を中心に社協や在介支援センターとともに立上げ、認知症に関する研修会Ⅰ回（96名参加）を行い。また、見守り活動の対象者の台帳登録（242名）を実施した。

桜６５見守りネットワーク研修会　　１２月１４日　９６名

桜地区福祉サービス事業所ハンドブック　８００部　　地区内の各福祉事務所を紹介(研修会・見守り会議・高齢者世帯・桜地区市民センターにて配布)

広域桜花台連合自治会６５見守り会議　８月２３日　２０名

桜台連合自治会６５見守り会議　９月２０日　２０名

桜連合自治会６５見守り会議　　１０月１８日　２２名

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	ドリル、ドリル刃、電動ノコギリ、グレーチング、ガソリン他	781, 354	(株)一色商会、(株)リクシルビバ、(株)コメリ、(株)JAサービス三重四日市
委託料	人材育成発掘事業(講座等) 高齢者見守り事業(講座等)	200, 000	桜地区社会福祉協議会 桜地区民生委員児童委員協議会
備品購入費	電動簡易リフト、	161, 989	中村機械工具(株)
合　計		1, 143, 343	

. 目標及び実績

指標	目標	実績
イベントや活動の参加者	500人	906 人
ボランティア増	10 人	50人

7. 成果

智積養水保全、矢合川や散策路の整備、竹灯りイベントによりボランティアや住民同士のふれあいの機会が増え地域のコミュニケーションが深まった。

また、高齢者の見守りの強化により、高齢者の方は、以前に増して安心した生活が送れるようになった。

8. 今後の展開

智積養水、一生吹山、矢合川での整備保存活動が継続されるよう地域にＰＲし、活動やイベントへの参加者を増やし継続していく。

民生委員を中心に、見守る側と見守られる側の輪を拡げていく。

〈環境整備事業〉

〈憩いの場づくり事業〉

〈人材育成発掘事業〉

第1回　岩崎学長講演

第2回　3人によるトーク

〈高齢者見守り事業〉

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）　実績報告書

事業名	もっと住み続けたくなるまちづくり	地区名	三重

1. 望まれる地域の姿

　住民が自らの暮らす地域に愛着を感じ、世代を超えた交流が盛んで、安心して住み続けられるまちづくりに連帯して取り組んでいる。

2. 地域の現状

　高齢化が進む一方、子供たちを含めた若い世代と高齢者が交流する場が減少し、高齢者が住み続けていく上での課題も顕在化してきている。

3. 課　題

　住民の高齢化により地域行事の多くが取りやめとなっていく中、知識や経験を有する高齢者世代と若い世代が交流する場が少なくなり、住民間の連帯感が弱まってきている。また、三重団地など高齢者世帯が多く暮らす地域を中心に、高齢者が住み続けるための環境整備が急務となっている。

4. 実施内容

(1)郷土資料館活性化事業

　現時点において、三重地区内住民でも郷土資料館の存在を知らない方が散見される。そのため、地元小学生作製紙袋ランタンの展示をはじめとしたイベントを開催し認知度の向上を図った。

・認知度向上イベント(12 月9日開催　参加者 1300 人)

(2)自然体験事業

　大学、企業との関係づくりによってお互いが共存できるよう地域のつながり強化を目的に、3者協同による里山を通じたイベントを開催した。

・みえ北里山まつり(11 月 19 日開催　参加者 300 人)

(3)まちづくり啓発事業

　次代を担う子供たちがまちづくりに関心を持てるよう、防災・減災をテーマとした講演会を開催した。

・児童を対象とした講演会(9月 10 日開催　参加者 462 人)

(4)三重西3世代交流事業

　好き嫌いなく何でも食べる子供を育てるなど食育を考える場として「食の大切さ教室」を計8回開催し、食を通じた3世代交流を図った。

・食の大切さ教室(7 月 29 日ほか7回開催　参加者延べ 247 人)

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
委託料	紙袋ランタン用資材、ポスター等印刷	395,280	三重郷土資料館保存会
	体験事業材料、消耗品、チラシ印刷	287,280	三重北小学校区連合自治会
	講師報償費、啓発用消耗品等	399,600	三重北小学校区連合自治会
	交流事業用材料、消耗品、講師料、会場使用料	291,600	三重西小学校区まちづくり構想委員会
備品購入費	プロジェクター購入	126,144	三重リコピー株式会社 四日市支店
合　計		1,499,904	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績（見込）
郷土資料館イベント参加者数	500 人	1300 人
みえ北里山まつり参加者数	300 人	300 人

7. 成果

今回実施したいずれの事業も、当日の参加者はもちろんのこと、スタッフも地区住民のあらゆる年代の方に数多く参加いただいた。このことから「世代を超えた交流の場」を作り出すことができ、住民間の連帯感を強める一助となった。

8. 今後の展開

住民活動が活発な小学校区から、他の小学校区が学んでいただけるような場の創出に向けて働きかけを行っていく。もって、三重地区全体として、まちづくりに対する住民の関心を高めていく。

郷土資料館活性化事業

自然体験事業

まちづくり啓発事業

三重西３世代交流事業

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	「あがたの課題をみんなで解決」作戦	地区名	県

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
良好な地域活動が楽しく持続し、魅力ある環境を維持する街	・人口が逓減し、高齢化が進行している。 ・まちづくりの先導的取り組みが展開されたが、活動の維持が課題となっている。

3. 課　題

まちづくりの**担い手**が、人口流出・高齢化により**減少**⇒　新たな参加のシステム、担い手の負担軽減

4. 実施内容

1．タブレット等を活用した地域情報の発信・交流の環境づくり及びICTの普及
スマートフォン・タブレットの講習、facebook サポーター養成講座を行った。
地域や各種団体にも講座のPRをして講座を7回行い、55人の参加者があった。

2. 地域課題への対応

(1)地域の人材育成事業
A 小学生高学年の頃から防災意識を育むとともに、災害時大人の人を支援できるように実践につながる講習会(あがたっこ防災)を行った。 7/17･24 参加者11人(小学校高学年)
B グリーンパーク岡山の担い手育成につながる講座の開催→岡山の石窯を使ったピザ教室(参加者20人小学生と幼児 7 人含む)や岡山特産の竹を使った工作教室(親子) (8/26 参加者13人小学生)を行った。

(2)オープンガーデンの普及事業
毎月 1 回程度会員宅を訪れ、庭園づくりの意見交換をするとともにPR冊子用の写真を撮った。PR 冊子(会員のお宅の写真や活動の紹介等)を2，500部作成して、地区のお知らせで回覧して購入希望者に配布。又各種団体の会合でも配布し、情報発信をしてメンバーを増やしていく。その他に花の寄せ植え教室に参加したり、会員間で松の剪定講座などを行った。

(3)あがた音頭・讃歌を多くの機会に披露
歌と踊りをさらに多くの機会に（文化祭やあがたが丘等の盆踊り、桜まつり、グリーンパーク岡山の夏祭り等に）披露して、地域の活性化を図った。
文化祭での披露に向けた振付講座開催　10/ 24(22 人地域住民)　　10/31(22 人地域住民)

(4)地域の散策・活動スポットの整備事業
地域の交流の場となっている地域の散策スポットや活動スポット(蛍とさくらの竹谷川や郷土資料館)の看板の整備をして、地域情報の周知(魅力発信)と共有化を図った。小学校高学年から蛍と桜に関する絵を募集し応募作品 10 点の中で最優秀作品に選ばれた絵を看板に掲載して、小学生他の地域の関心を集め、地域の活性化に繋げた。

(5)地域の魅力アップ事業
四日市大学の副学長のアドバイスも受け、特に地域の若い世代の視点からの地域の魅力の発信できるあがた魅力アップカレンダーを1，800部作成(作成過程の中であがたの魅力の意見交換のワークショップを行った。またグリーンパーク岡山の活動の支援に入っている四日市大学のボランティア部の学生等の意見も聞いた)して、地区のお知らせで回覧して希望者に配布又主として若者が集まる会合等や他地区へも配布して、地域の魅力を発信して若者等の地区への定住・移住につなげた。また学生のボランティア部と関係を深めて県地区事業への参画につなげた。
12/3 地域の若者を主にした　ワークショップ　参加者　15人(若い人を主にした地域住民)

(6)地域出身の偉人の地元へのPR事業　江戸時代の地域出身の儒学者山田三川の墓碑や資料館のある群馬県安中市へ(資料集は指定重要文化財)4人(地域住民と地区市民センター館長)で講座等の資料や地域の中での PR のため 11/17 訪問した。その後山田三川の資料を使った視察報告会(歴史講演会)を 2/18

に開催して14人(歴史に興味のある地域住民)の参加が有り、三川関係資料や史蹟等をスライドで鑑賞しながら、その事績を偲び、今後の三川顕彰の有り方を共に考えた。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
旅費	群馬県安中市視察	72,020	地域の代表者とセンター職員
報償費	ICT 活用講座	58,000	専門家講師
	こども防災教室	43,000	県地区女性防災クローバー
	子ども工作教室	7,000	専門家講師
	子ども工作教室	30,000	グリーンパーク岡山を愛する会
	石窯を使ったピザ教室	12,000	地元講師
	石窯を使ったピザ教室	6,000	グリーンパーク岡山を愛する会
	山田三川報告会歴史講座	15,000	専門家講師
	地域魅力アップ事業アドバイザー料	32,000	四日市大学小林慶太郎副学長
	あがた音頭踊り指導	87,000	県地区社会福祉協議会
需用費	印刷製本費	269,460	北勢印刷㈲
	印刷製本費	65,880	フコク印刷工業㈲
	ワークショップ用文具	2,021	㈲萩事務機販売
	看板の絵の募集用物品	6,804	㈲萩事務機販売
	工作教室材料	4,644	㈱コメリ
	インクカートリッジ、CDR	14,466	㈲萩事務機販売
	啓発用文具	10,800	㈱コンツナ
	ピザ教室用竹炭、薪	4,500	グリーンパーク岡山を愛する会
	炊き出し訓練用補助材料	1,710	イオンリテール㈱四日市イオン尾平店
委託料	看板作製業務	251,640	NKナガラ工芸
使用料及賃借料	講習会用資器材借上げ	6,720	NPOプラス・アーツ
合計		1,000,665	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
県地区の facebook page へのいいね (共感数)	900 いいね(県地区 2515 世帯×スマートフォン世帯当たり全国普及率 72%×50%)	1,450(いいね実績)

7. 成果

地域の課題について、地域内外からの多くの個人の気づきから、自発的で楽しく楽な(負担の少ない)取組みが生まれ、その参加者が別の取組みにも参加するという相乗効果や横の連携が生まれ地域のイベント等への参加者を増やし、地域の活力を維持することに大変成果があった。

8. 今後の展開

県地区で、地域を超えたネット上の交流が生まれ、それが、地域の魅力の発掘につながり、さらに、働く場の創出や地区への転入など、交流から定着に発展させることにより、人口減、高齢化に負けない地域をつくる。

〈工作教室（竹細工)〉

〈オープンガーデン（訪問の様子)〉

〈地域魅力アップ事業ワークショップ〉

〈あがたっこ防災〉

〈安中市訪問　平尾町出身山田三川の墓の立て看板〉

竹谷川沿いに立てた看板

平成29年度　地域活動費（館長権限予算） 実績報告書

事業名	世代を越えた絆づくり事業	地区名	八郷

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
先人から受け継いだ豊かな八郷の自然・歴史・伝統文化等を守り育てるとともに、これらの地域資源に誇りを持ち、子どもから高齢者まで、世代を越えてふれあうことにより、絆を大切にする地域の実現を目指す。 また、強い絆に基づく「共助」により災害への備えができる安全に暮らせるまちづくりを推進する。	・少子高齢化が進む中、親と同居しない世帯が多くなり、世代間や地域間のつながりが次第に希薄になってきている。 ・高齢者のみで構成される世帯が多く、また、空き家や耕作放棄された田畑が増加傾向にある。 ・一方で、地域住民が各種イベントの企画、運営やHP による情報発信などに積極的に関与し、地域の活性化に向けたさまざまな取り組みが精力的に行われている。

3. 課　題

少子高齢化が進む中、世代間や地域間での人のつながりが希薄化してきており、自然・歴史・文化等の地域資源を十分活用できず、地域の活力が失われつつある。

一方で、各種地区活動団体・協議会等が中心となり、地域の活性化に向けたさまざまな取り組みが精力的に行われている。

したがって、少しでも多くの地域住民が地域に誇りを持ち、互いの交流を深め、絆の強い地域づくりを実現できるために、地域活動費を効果的に投下することにより、これらの取り組みが持続可能なものとなるよう支援を行う必要がある。

4. 実施内容

①地域の絆を深める担い手づくり事業

地域において世代を越えて協働できる機会を提供するため、今年度も地域住民から田や畑を借用し農作業体験（田植え、野菜づくり）を実施した。農作業体験自体は継続事業として、今年度は特に世代間交流の充実という点に注力するため、地区老人クラブ連合会や八郷中央幼稚園へ積極的に参画をはたらきかけた。また、これら農作業体験については、最終的に「収穫祭」として子どもたちを中心に参加者が集い、とれた米（八郷米）によるおにぎりの大試食会や野菜の収穫・調理を行うことで、これを一連の作業の成果発表の場とした。

さらには、11月12日に開催された「第10回八郷フェスタ in 伊坂ダム」において、八郷米おにぎりや収穫した野菜で作った「八郷汁」が子どもスタッフ（小中学生）たちにより来場者にふるまわれ、大好評であった。

- ▸5/12 田植え（八郷中央幼稚園親子向け）、5/13 田植え、里芋植え、6/10 育成観察会、ゴボウ・黒豆・サツマイモ植え、7/15 人参種まき、ネギ植え、育成観察会、8/10 草取り、8/19 大根・ブロッコリーの種まき、育成観察会、9/9 稲刈り、10/21 米袋詰め、11/11 収穫祭（野菜の収穫・調理・八郷米おにぎり大試食会）
- ▸参加者数：延べ695名　［内訳：米・野菜づくり（延べ459名）、農作業指導者（延べ58名）、まちづくり委員会（延べ112名）、八郷中央幼稚園園児及び家族（延べ66名）］

②散策・サイクリングマップに基づく標示看板設置による地域資源の魅力再発見事業

平成26年度に作成した『八郷地区　散策・サイクリングマップ』で推奨する周遊コース上全67箇所に標示看板を設置するにあたり、平成28年度から引き続き公益社団法人三重県公共嘱託登記土地家屋調査士協会に標示看板設置予定箇所の土地所有者調査を委託し、全設置予定箇所について調査を完了した。その上で今年度は、うち23 箇所（主に山村ダム方面周遊コース）において標示看板を作製し設置した。

③男女共同参画の視点に基づく女性防災リーダーの発掘・育成事業

地域の防災・減災活動を推進する上で、特に避難所運営に男女共同参画の視点を取り入れることが重要であるとの観点から、「女性防災リーダー」の人材の発掘及び育成に向けた初期段階の取り組みとして、地域の女性を対象に、以下の防災セミナー及びワークショップを実施した。

- ▸H29.12.6　防災セミナー・・・演題『私たちで考える安全・安心な避難所づくり　～あなた自身と大切な家族、本当に守れますか？～』　▸参加者数：61名（うち女性47名）
- ▸H30.2.4　ワークショップ・・・テーマ『避難所環境づくり訓練　～見直そう！工夫しよう！試してみよう！～』　▸参加者数：30名（うち女性25名）

いずれも、講師は、減災と男女共同参画 研修推進センター　共同代表、早稲田大学地域社会と危機管理研究所　招聘研究員：浅野　幸子　氏。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	講師報償金(初回セミナー)	53,120	減災と男女共同参画 研修推進センター 共同代表 浅野 幸子氏
	講師報償金(ワークショップ)	41,800	
需用費	印刷製本費(ポスター、チラシ)	27,000	フコク印刷工業㈲
	印刷製本費(ポスター、チラシ)	23,193	㈲千曲印刷
	消耗品費(ワークショップ会場看板)	14,796	看板 いとう
委託費	農作業体験に係る経費	294,000	八郷地区連合自治会
	周遊路標示看板設置候補地土地所有者調査	299,646	(公社)三重県公共嘱託登記土地家屋調査士協会
	周遊路標示看板設置	496,908	看板 いとう
合 計		1,250,463	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績(見込)
農作業体験学習・収穫祭等への延べ参加者数	600人	695人
防災・減災講座の女性受講者数(2回いずれも受講)※	30人	22 人

※台風の影響により講座開催日程を見直したことにより、ワークショップの開催を1回減じることとなった。

7. 成果

1．農作業体験から収穫祭、八郷フェスタまでの一連の事業（イベント）に子どもから子育て世代及び高齢者までが協働して取り組むことができた。年々このような事業を重ねる度に、強い絆で結ばれたまちづくりの基盤が形成され、さまざまな世代においてまちづくりの担い手が生まれやすい環境が整ってきていることを実感できている。

2．散策マップに基づく標示看板の整備が進むことにより、徒歩又は自転車等で周遊することによる地域資源の魅力の再発見に寄与できている。（平成３０年度で整備完了予定）

3．比較的地域防災に関心が薄いと思われる女性に、著名講師によるセミナーやワークショップを受講してもらうことにより、大きな意識改革を促すことができた。これにより、今後女性が地域防災活動へ積極的に参画しようとする大きな動機付けとなることが期待できる。

8. 今後の展開

1．農作業体験については、事業が継続化していることから、今後、地域活動費による支援を続けることは困難である。しかしながら、世代間交流を象徴する事業として確実に地域に根付いてきており、また参加者からは事業の継続を望む声が非常に多いことから、これらの期待に応えるために、今後、地域活動費以外の手法による行政の支援のあり方について検討する必要がある。

2．散策マップに基づく標示看板は H28～30 年度の３カ年で整備完了の予定である。整備完了後は、地区 HP 等での PR や散策推奨ルートを積極的に活用するような新たな地域イベントを企画することなどにより、より多くの人に地域資源の魅力を再発見してもらうよう働きかけていく。

3．最終目標は、地域自主防災組織の中に複数名の女性リーダーを配置することであるが、そのためにもまずは地域在住の女性の防災意識を高めるために、今後も効果的なセミナーやワークショップを企画し、地区防災連絡協議会とも連携しながら時間をかけてでも確実に人材の発掘と育成を図る。

〈地域の絆を深める担い手づくり事業〉

－田植え－

－野菜種まき－

－稲刈り－

－お米袋詰め－

－野菜収穫－

－八郷米のおにぎり大試食会－

－八郷汁ふるまい－
（第 10 回八郷フェスタ in 伊坂ダム）

〈散策・サイクリングマップに基づく標示看板設置による地域資源の魅力再発見事業〉

〈男女共同参画の視点に基づく女性防災リーダーの発掘・育成事業〉

―初回 セミナー―

―２回目 ワークショップ―

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	下野ふるさと見直し事業	地区名	下野

1. 望まれる地域の姿

自然豊かで、史跡や遺跡など文化資源を持つ下野地区をあらためて誇りに思える地域にする。

2. 地域の現状

- 活用できる文化資源が眠っている。
- 地域の史跡・遺跡を知らない人が増えている。
- かつての取り組みは時間が経過し、認知度が低下している。

3. 課　題

下野地区にあるふるさとを感じる地域資源を再確認、改めて、誇れる故郷を再認識し、地域のコミュニティの維持・向上を目指し、地域の絆づくりの一助にしていく必要がある。そのため、地域の資源の掘り起こしを行い、地域の魅力の再認識、再発見のための事業を行い、情報発信を行う。

4. 実施内容

下野音頭編・・下野音頭の普及講習、地区盆踊り大会（４回）や地区行事（敬老行事、文化祭）などで披露し、郷土が誇る芸能大会に参した加。芸能大会では縁むすび賞を受賞。セコイア太鼓とのコラボが図られ世代交流も評価を得た。（披露出演者延 112 人）
ふるさと下野再発行編・・地域資源として、平成６年に発行した「ふるさと下野－遺跡・史跡探訪－）の記載内容の見直し、改訂を行い、冊子の再発行（3,000 部印刷）をした。改訂委員会（7 人）
情報発信・交流型ＨＰ作成編・・地区の情報発信の手段として、また、地区内の諸団体の絆を深めるツールとして下野地区の交流型ＨＰ（ホームページ「Hi！しもの」30 年 1 月 5 日開設）を立ち上げた。また、地域の魅力等の情報発進や地域団体の活動の紹介を行うため、下野地区まちづくり委員会へ委託し、ＨＰを制作、維持管理をしていく研修（5 回　延参加者 59 人）を行い、人材育成（実行委員会 7 人）に取り組んだ。

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	冊子印刷	550,800	フコク印刷工業㈲
委託料	普及（講習・披露）	120,000	下野音頭保存会
	交流型 HP 作成・人材育成	440,000	下野地区まちづくり委員会
合　計		1,110,800	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
郷土が誇る芸能大会への参加	参加	参加（縁むすび賞受賞）
交流型 HP の立ち上げ	立ち上げ	30 年 1 月 5 日開設
地域人材の育成（郷土史の改訂、HPの管理運営）	10 人以上	14 人

7. 成果	8. 反省点･今後の展開
下野音頭の普及活動により地域の一体感を醸成、ひいては地域の芸能振興を図ることができた。 また、ふるさと下野の改訂・再発行は、ふるさととの歴史を振り返る契機になることが見込まれる。交流型ＨＰの開設により、地域のコミュニティの交流に寄与できると考えている。	下野音頭については検討会等開催し、今後の活動を協議するが、今後も普及・振興を図り、定着化を目指していく。「ふるさと下野」については、その活用を検討し、講座等を開催する。 地区ＨＰについては、掲載団体を増やすとともに維持管理の人材育成に引き続き支援していく。 また、複数年をかけて、地域資源の掘り起しを行い、地域再確認・再発見の事業を企画するともに情報発信を模索していく。

下野音頭踊り講習(7/25.27,8/5.6.9 各回 15～40 人)

下野音頭披露　（地区行事 9/18 敬老行事 11/5 文化祭（200 人・100 人）
夏祭り（２盆踊り大会延べ 4 日 8/11.12.13.14 、2,000 人）郷土が誇る芸能大会（1/14）

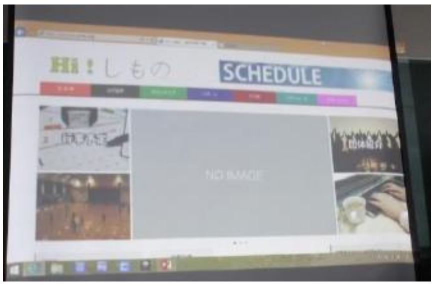
盆踊り大会

敬老行事

芸能大会

HP 研修会

下野のホームページ「Hi！しもの」　ふるさと下野改訂版



平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	素晴らしい「環境」を継承する　まちづくり事業	地区名	大矢知

1. 望まれる地域の姿

安心して暮らせる生活「環境」を育み、豊かな自然「環境」を守り、歴史・文化的「環境」を次世代に引き継ぐために活動する地域。

2. 地域の現状

近年の人口増加により、世代間のコミュニティが希薄となってきている。一方では、里山などの豊かな自然や多くの歴史遺産が残っている。

3. 課　題

地区内では住宅地の開発により人口増加が著しく、人と人との繋がりが希薄となり、世代間のコミュニティが弱体化してきている。また、地区内にある豊かな自然や歴史的遺産の認知度も低い。

このため、コミュニティの再形成を進めることや、自然や歴史的遺産などの大切な資源や環境を守り生かしていくことが望まれている。

4. 実施内容

①　身近な交流の場づくりプロジェクト

地区市民センターや地区内の集会所、公会所を会場として、ゲームなどを行いながら子どもから高齢者までが気軽に楽しめる「街なかサロン」を開催するとともに、生活改善や環境保全を目的とした「ＥＭ液づくり(60 人)」「ダンボールコンポストづくり(55 人)」を実施。

また、親子で参加でき、地場産品の素麺やうどんを活用した「麺料理教室(78 人)」、「お菓子づくり教室(27 人)」を実施。

	開催日・回数	参加者数
街なかサロン	毎月第 3 木曜日　12 回	192 名
EM 液づくり	7/20,8/17,9/5,11/16,2/6,3/15 の 6 回	60 名
ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙｺﾝﾎﾟｽﾄ	6/15,8/1,10/19,11/7,2/16,3/6 の 6 回	55 名
麺料理づくり	6/17,8/19,10/14 の 3 回	78 名
お菓子づくり	2/3 の 1 回	27 名
	計	412 名

②　朝明川自然学習公園化プロジェクト

朝明川堤防を散策路として整備するため木竹を伐採し、住民に憩いの場や自然観察の場を提供。

また、本年度は 8 月に小学校高学年を対象とした「朝明川の生き物観察会(59 人)」を実施した。

	開催日・回数	参加者数
竹伐採作業	毎月 1 回実施(10 月･1 月除く）　10 回	197 名
生き物観察会	8/20 の 1 回	59 名
	計	256 名

③　里山保全プロジェクト

地区住民が自然に触れ親しむことができるよう、地区内にある 3 カ所の里山周辺の散策路を整備するとともに、四季折々の風景を楽しめるように、樹木の植樹を実施。

	開催日・回数	参加者数
保全作業	5/14,6/16,7/16,9/17,11/19,12/10,1/21,2/18,3/18 の 9 回	208 名

④　歴史・文化の継承プロジェクト

地区内に点在する貴重な歴史遺産や文化を学び、それを継承していくために、計画的に案内板

を設置する。本年度は、4 カ所に案内板を設置するため、会議で案内文の内容を協議して、案内板の設置を完了した。

また、設置カ所や周辺の史跡を巡るまち歩きを実施した。

	開催日・回数	参加者数
設置会議	6/27,8/3,10/17,10/26,11/8, 2/27 の 6 回	61 名
設置現場立会い	8/16,11/24 の 2 回	10 名
まち歩き	12/2 の 1 回	23 名
	計	94 名

⑤ 「大矢知おどり」普及事業

地区内に現存する新大矢知音頭の歌詞はそのままに、曲を新調して「大矢知おどり」を制作し、子どもから高齢者までがこぞって踊れるよう普及活動を進めた。作曲・振付けは、地元の専門家に依頼し、撮影編集を経てＣＤ60 枚・ＤＶＤ60 枚を作成した。配付先は、自治会をはじめ中・小学校、幼稚園、保育園等に配付し、講習会などにより地区内こぞって踊れるように取り組んだ。

	開催日・回数	参加者数
制作会議	毎月第 2 水曜日と 3/16 の 13 回	108 名

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
講師報償費	講座講師謝礼（麺料理教室）	9,000	地元講師
需用費	講座材料（麺料理・環境講座）	51,575	講座講師、㈲アスムほか
	観察会ライフジャケット	79,200	㈱コメリ
	里山整備用資機材	352,002	㈱コメリ、㈲アラキヤ
	里山整備用資機材（苗木）	128,304	㈲みどり園
	里山整備用資機材（替刃等）	52,560	㈱コメリ
委託料	案内看板製作・設置	380,160	エクステリア モリタ
	大矢知おどり 作曲・振付・撮影収録	422,799	地元作曲家、地元舞踊家 エディングスタジオ
合 計		1,475,600	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
各プロジェクトへの参加人数及び講座への参加者数	８００人	１，０７８人 ①身近な交流 412 人 うちＥＭ液講座等参加者 220 人 ②朝明川公園化 256 人 うち生物観察会参加者 59 人 ③里山保全 208 人 ④歴史･文化継承 94 人 ⑤大矢知おどり 108 人
プロジェクトボランティア数	８０人	９１人 ①身近な交流の場 10 人 ②朝明川公園化 26 人 ③里山保全 28 人 ④歴史･文化継承 18 人 ⑤大矢知おどり 9 人

7. 成果	8. 今後の展開
プロジェクトスタッフにおいては、自らが住む地域の環境を整備することで愛着や達成感を持つことができ、まちづくり意識の高揚が感じられた。また、自然環境や歴史・文化の保全を通じ、次世代への継承を進めることで、まちづくりが一層推進された。	参加者の固定化を防ぎ、新たな人材を発掘・育成していくために、各種団体と連携を図ることが必要である。また、事業の中間報告や完成報告を地区だよりに掲載するなど、さまざまな機会を通じ、多くの人に活動を理解していただくとともに、行動していただけるようにＰＲをしていく。

〈身近な交流の場づくりプロジェクト〉

―街なかサロン―

―EM 液づくり―

〈朝明川自然学習公園化プロジェクト〉

ー竹伐採作業ー

ー朝明川の生き物観察会ー

〈里山保全プロジェクト〉

〈歴史・文化の継承プロジェクト〉

〈「大矢知おどり」普及事業〉

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	河原田地区「みりょく」倍増事業	地区名	河原田

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
みかん山、桜並木など先人から受け継いだ良好な自然環境を守り、伊勢街道が通るまちの歴史や伝統文化を次世代に引き継ぐ活動に取り組むまち。	近年の人口増加により新旧住民との交流が進まず、地域力（コミュニティ）が弱まる傾向にある。歴史的景観やみかん山とその周辺には自然が豊富である。

3. 課　題

　近年のミニ開発で若年層の人口増加が進む地域と高齢化が進み空き家の目立つ地域が混在しており、新旧住民の交流が少なくなり住民間の連帯感が希薄になっている。また、歴史的景観や自然環境の整備も高齢化や担い手不足のため未整備の状態が続いている。

4. 実施内容

【1】　みかん山プロジェクト推進事業

①　**「忘帰處」の環境整備**（整備回数　12回　158名＋樹名板製作作業　3回　107名）

・かつての景観を確保し、小さい子どもを連れた家族やお年寄りが訪れやすくするため、樹木の伐採や下草の刈取り、展望所までの階段の再整備やベンチの設置を行った。

・農芸高校造園科に庭園デザインを依頼し、地元住民で庭園を製作した。眺望だけでなく、美しい庭園を見ながら過ごせる憩いの場として整備した。

・住民が「忘帰處」の景色を楽しみ、自然環境を楽しく学習できる場となるよう、河原田小学校4年生と地域住民が協力し樹名板の製作と設置を行った。その後、作業の記念として植樹も行い、子どもたちにとって思い入れのある場所となった。

②　**忘帰處復活記念フェスの実施**　11月19日（参加者　227名）

・忘帰處が再整備されたことの周知と忘帰處の紹介を兼ねたイベントを実施。復活記念式典、みかん山散策ルートをめぐるウォーキングとゴールでは国際交流コンサートを実施した。

【2】　歴史を知る事業

①　昨年実施した歴史講座から歴史に関心を持つ住民が増えており、歴史を研究し保存していこうという機運が高まっている。河原田地区郷土史の後編をまとめるための人材と資料収集のため、地域のカフェサロンやいきいきサロン等において高齢者の方から情報収集を行った。

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	樹木講座講師謝礼	33,000	元中学校長(3回)
需用費	環境整備用資材	111,768	株式会社コメリ
	庭園製作用資材	100,984	株式会社コメリ他
	樹名板用資材	30,244	株式会社コメリ
	その他消耗品	15,079	株式会社香久屋
	歴史調査用書籍	5,400	株式会社白揚ブックセンター
	整備作業用飲料	8,640	四日市市社会福祉協議会
委託料	忘帰處樹木剪定及び伐採業務委託	486,000	今村造園
	散策路及び階段整備業務委託	464,400	今村造園
	忘帰處復活記念フェス業務委託	155,000	ささえ愛のまち河原田の会
合　計		1,410,515	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
環境整備事業への参加者	200人	265人

7. 成果

忘帰處の環境整備に参加することで、自分たちが住む地域の豊かな自然を再認識し、自然環境を保全していくことへの意識が高まり、郷土への愛着が深まった。また、美しい庭園を見ながらお弁当を広げたり、散策をしたりと憩える場として利用する機会が増えた。整備したことで庭園の行者像の首のないことが話題となり、地元の石材店が無償で修理を申し出ていただき７０年ぶりに復活した。また、忘帰處の更なる整備や周辺の環境整備、事業企画など地域住民が積極的に関わろうという気運が高まった。

8. 今後の展開

復活した忘帰處の維持をしていくため、自治会が中心となって地元企業の協力も得て、年1～2回の草刈等を住民で実施していくことで調整中。子供やお年寄りの安全を考えると手すりの設置が必要である。安心して散策が出来る場所となるように、もう少し手を加える必要があるので来年の課題としたい。

〈みかん山プロジェクト推進事業〉
－「忘帰處」の環境整備－

－忘帰處復活記念フェスの実施－

〈歴史を知る事業〉

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	地域力を活かしたまちづくり事業	地区名	水沢

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
四日市あるいは周辺の地域の人々が、ちょっと日常を忘れ、自然に包まれゆったりと時間を過ごすことができ、また、水沢ファンを生み、安心して定住できる地域。	豊かな自然とトップレベルの茶産業地、すぐれた伝統芸能と豊かなコミュニティーを持ちながらも人口減少、コミュニティーの希薄化が進んでいる。

3. 課　題

水沢地区まちづくり構想の中で「水沢」の魅力アップを目指す施策が策定されたものの市の都市計画策定も進まず、また、地域の活性を目指す活動に取組がなされるが、応援が必要。

1．　既存の補助金等では、初期活動の山を越えづらい状況がある。
2．　市、館長の事業ではなく、地域住民自らで起業しようとの思いが強い。
3．　今後の継続、発展を考慮すると、地域主導の活動が望ましい。

4. 実施内容

①水沢地区 PR 事業支援業務委託

地域住民開催による、ウォーキング大会（4 月開催　参加者　約 80 名）、地産品模擬販売市（4 月開催　参加者　約 150 名）などの開催事業の企画・運営を支援し、自然名勝、歴史・文化資源を活用した地域ＰＲ活動の実施やイベント等の開催を通じての人材の発掘（スタッフ 12 名、ボランティア 18 名の掘起し）につなげるとともに、地域住民の絆を充実させる勉強会の開催を含めて行なった。

120 周年記念事業（10 月 26 日開催、楽し市）へのステップアップ、今後のまちづくり活動（継続的な勉強会）へ続いた。

②まちづくり構想推進委員会等の応援

まちづくり構想推進委員会の取組みや、情報発信等についての支援を行い、情報室機材を充足。利用についての初心者講習会へつなげ、新規のＰＣ・タブレット利用者等の掘り起しや地域の新しい人材交流につなげることを意識し、プロジェクター、カラープリンター、タブレット、などを利用し、今まで情報機器に触れてこなかった方々約 10 名に参加いただき、今後の市民センターでの講座内容の研究等につなげた。

③ 水沢地区マップサイト制作業務委託

電子情報付き地区観光マップの作成による自然名勝、歴史・文化資源を活用した情報発信や地域ＰＲ活動の取組みを通じたホームページ運用技術の習得、向上、人材の発掘、地域住民の絆を充実させる目的での勉強会開催を含む形で行った。　市のＨＰ・水沢地区市民センター領域内へ構築していく業務の企画実施業務を委託することにより、ホームページの更新、今後の地域情報の発信の会議、研究会開催につなげた。

④ 地域案内活動　史跡名勝・保存活動の応援

地区内西部のイベント広場での地域案内板の作成、設置による自然名勝、歴史・文化を活用した地域ＰＲ活動並びに周辺の保全活動を行った。また、活動を通じて、人材の発掘、地域住民の絆の充実につなげた。休眠状態の史跡、名勝保存会 10 名、水沢 SDK プロジェクト 10 名の活躍、存続へつなげた。

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	講座用機器類・消耗品類	120，358	ヤマダ電機、コジマ電気 青商店、アスクル
	野外活動資材等	47，675	小山商店、中川ブロック、コメリ
委託料	地区 PR 事業支援業務	320，000	水沢元気なまちづくり会
	タブレット・パソコン講座	60，000	地元講師実績者
	地区マップサイト制作業務	482，800	まちづくり構想推進委員会
	史跡・名勝案内板制作業務	245，484	常磐工芸社
	案内板設置業務	70，000	史跡・名勝保存会
備品購入費	会議、講座支援機器（PJ）	52，920	三重リコー
	会議、講座支援機器（PC）	78，516	コムイン三重
合　計		1，477，753	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
フィールドワーク参加者	100 人	150 人
学習会参加者	20 人	10 人
既存　映像等閲覧数	500 回	1,000 回
マップサイト利用（設定時）	100 回	100 回

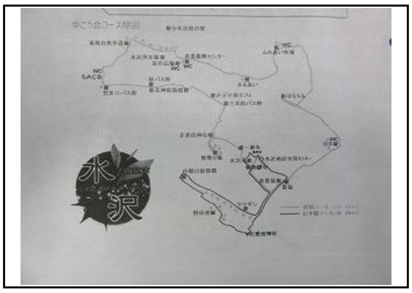
7. 成果

・水沢の自然・産業、それらに関する地域活動・魅力・コミュニティーを活性化。
・情報の発信、情報ツールについての学習。
・市民活動拠点の整備補強。
・市の情報発信への題材提供、相乗効果。

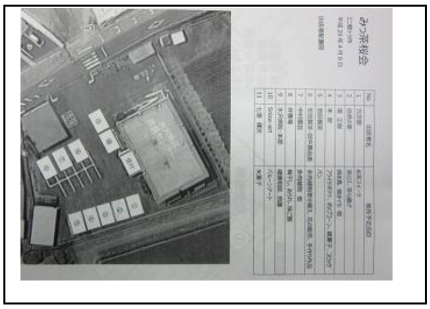
8. 今後の展開

地域活動の活性化、充実ならびに、まちづくり構想の実現にむけた人材開発、支援に四日市市が動いていることを実感してもらえるように。引き続き地域活動の援助を主体に活動する。
・水沢元気なまちづくり会等への支援業務委託を通して地区 HP 管理体制等の充実化を図る。
・史跡・名勝保存会等への支援業務委託、樹木医等の派遣を通して、地区の保全活動、自然環境 PR 体制の充実化を図る。
・新しい芸能「お茶のまち水沢」開始団体への支援を行い、地域芸能新規開拓体制の充実化を図る。
・情報機器新規参入者講習等によりセンター利用者間の新たな交流促進を図る。

ウォーキング大会



地産品模擬販売市



史跡・名勝保存活動

講座、マップサイト支援

タブレット・パソコン体験講習会

★参加条件★
■タブレットを所持しない初心者
■年齢制限はありませんが、原則は中学卒業以上の方

Wifi

◇開催日：同じ内容の講座を4回行います。都合のよい日に参加下さい。
◇　①平成30年3月22日(木) 13：30～16：30
◇　②平成30年3月23日(金) 13：30～16：30
◇　③平成30年3月24日(土) 13：30～16：30
◇　④平成30年3月25日(日) 13：30～16：30
◇場　所：水沢地区市民センター2階 図書館
◇内　容：市民センターが準備したタブレットを使って基本操作の習得と活用方法を体験する。
◇参加料：無料
◇講　師：技術士 北谷勝彦さん（水沢町）
◇定　員：①～④で毎回6名（定員になり次第締め切り）
◇申込先：水沢地区市民センター　電話329－2001

【注】：タブレットとの比較のためノートパソコン所有者は持参して頂いて結構です。

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	自然環境を生かしたまちづくり事業	地区名	保々

1. 望まれる地域の姿

豊かな自然環境の保全に地区住民の皆が取り組み、次世代に引き継いでいくことのできる地域

2. 地域の現状

減少著しく市内では目にする機会が少ない蛍や自生するコウホネを見ることができるなど豊かな自然環境に恵まれた地域

3. 課　題

地区内の自然保護活動団体である「保々の自然に親しむ会」が地区内の県有地を借用して里山・ビオトープを整備し、小学校や保育園とも連携した自然環境学習や、自然観察会・蛍観察会など自然環境の保全の普及啓発活動を行っているが、会員の高齢化が進み、担い手不足となっている。

また、地区内の自然資産である樹齢４００年を超える古木・巨木であるスダジイについて、昨年度に樹木医の診断を受けたところ、一部枯死している枝があり、保存・樹勢回復措置を講じる必要があることがわかったが、地区住民には、そのための専門知識・技術がない。

4. 実施内容

(1) 遊歩道整備・保々西城跡順路案内板設置

自然保護活動団体の協力を得て、材料支給の方法により里山に擬木の階段（１８段）を設置し、人々が訪れやすくなるよう遊歩道整備を行った。（１２月７日設置）

また、里山の奥にある保々西城跡を訪れる人が道に迷わないよう、順路案内板（１基）を設置した。（２月１６日設置）

(2) 地区自然保護活動記録冊子作成

地区内から自然保護活動団体の活動記録を公募し、活動記録冊子（２００部）を作成した。応募団体、地区内自治会、地区内小学校・中学校・高校、人権プラザ小牧へ配布するとともに各地区市民センター図書室へ貸出用図書として配置。保々地区の自然保護活動を紹介し、自然保護活動についての意識啓発に活用する。

(3) 里山保全入門講座

里山保全活動に興味を持っていただくとともに、自然保護への意識高揚、人材育成を図るため、自然保護活動団体の協力を得て、里山保全入門講座を開催した。

（１１月２５日実施　北勢中央公園内の里山保全活動地にて講義、現地調査　２１人参加）

(4) 古木・巨木のスダジイ保存のための担い手づくり講習会

古木・巨木のスダジイの保存のための担い手づくりのため、樹木医による剪定等の実技を交え、講習会を実施した。

（１２月１３日実施　スダジイ前で講習会実施　１２人参加　）

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	樹脂製擬木階段	136,080	中村機械工具㈱
	活動記録冊子印刷	208,008	北勢印刷㈲
委託料	順路案内板設置	79,920	SSデザイン設計・服部
	里山保全入門講座	66,960	保々の自然に親しむ会
	古木・巨木のスダジイ保存のための担い手づくり講習会	399,600	東海物産㈱三重支店
合　計		890,568	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
里山保全入門講座参加者数	30 人	21 人
古木･巨木のスダジイ保存の担い手ボランティア数	20 人	25 人

7. 成果

　里山保全入門講座の参加者から１名が、地区の自然保護活動団体である「保々の自然に親しむ会」に入会し、自然保護活動者が増加した。
　古木・巨木のスダジイについて、講座参加者を中心として保存活動が始められた。

8. 今後の展開

　整備を行った里山、昨年度に作成した地区の自然を紹介するパンフレット及び今年度作成の地区自然保護活動記録冊子を活用し、自然環境を守り次世代へ引き継ぐことの重要性の浸透を図るとともに、里山保全活動への参加者を増やし、世代交代へつなげるとともに、地域の協力体制を構築していく。

〈遊歩道整備・保々西城跡順路案内板設置〉

〈里山保全入門講座〉

〈古木・巨木のスダジイ保存のための担い手づくり講習会〉

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	海蔵川魅力アップ事業	地区名	海蔵

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
市の観光資源になっている海蔵川堤防の桜並木を中心とした河川敷や菖蒲園を、地区住民を含む市民誰もが自然を感じることができる憩の空間として利用できる。	春の桜まつりには人が集まるが、それ以外ではせっかくの緑地帯が有効に活用されていない。 桜の木の剪定をはじめ、菖蒲園を含む河川敷周辺の環境保全活動の担い手が地域団体のボランティアが固定化している。

3. 課　題

① 平成 26 年度に樹木医の診断を受けたところ、海蔵川の桜は老木（樹齢 50～60 年）であり、延命措置を講じる必要があることが判明したが、地域住民には専門的な技術がない。

② 河川敷の利用促進のため美しい環境を守っていくべきであるが、桜並木、菖蒲園の保全に携わっている人も固定化しており、関心の薄い地域住民も多く、担い手の確保や技術の伝承が難しい。

③ また、その活動が地域ボランティアによるものであるとの認識が一般市民に非常に低い。

4. 実施内容

① 桜並木の保存・活用・魅力づくり

古木化が進んでいる樹木の保存を行うために、樹木医の剪定指導のもと、地域住民による剪定などを実施した。（概ね全体の 1/2 が未実施：左岸（海蔵川北側堤防約 300 本）普段の管理（11 月、3 月に剪定など）に加えて、今年度も高所剪定作業により発生した枝木の運搬処分を自治会長はじめ、地域のボランティアにお世話になり実施することができた。

② 樹勢回復作業

樹木医による樹木診断に基づき施肥などのフォローを地域のボランティアにお世話になり実施することができた。（施肥が必要な本数 100 本の施肥実施）

これまでの実績と今後の予定

H27　剪定（高所危険個所）　50 本
H28　剪定（高所危険個所）100 本、施肥 50 本
H29　剪定（高所危険個所）150 本、施肥 50 本

③ さくらまつり来場者への周知

地域管理による成果の周知、広報。花見見物者へのアンケートを実施した。

④ 菖蒲園活性化の支援

専門家による菖蒲の育成講義などをはじめ管理の助言指導をうけた。また、生育環境をよりよくするための土壌整備などの検討もあわせて行った。

これまでは統一的な管理マニュアルがなかったため支障となる事象なども多く、管理運営がより効率的、円滑になるように、誰もが理解できるマニュアルを策定した。

⑤ 桜まつり記録（ＤＶＤ作成）準備

桜まつりに関して記録した資料はあまりなく、将来的に、まつりに関しての準備や様々な調整方法などを記録として保存する必要がある。また、地元団体で組織するボランティアである「海蔵川桜まつり実行委員会」が企画運営を行っていることの認知度も低いため、ＤＶＤ等により、多くの人々にこれを周知していくための資料収集などの準備を行った。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	海蔵小児童への桜の講義	5,000	水谷実行委員会委員長
需用費	備品付属消耗品	5,180	アラキヤ
	剪定作業消耗品	13,554	カーマ
	啓発パンフレット	21,600	フコク印刷
	菖蒲園土壌、消耗品	91,566	カーマ
委託料	高所・危険箇所剪定	448,200	東海物産株式会社
	樹勢回復作業指導	437,400	東海物産株式会社
	剪定警備	84,240	MS 管財
	看板作製	65,880	有限会社タカクラ
	DVD 作成準備	97,200	スタジオ 401
	菖蒲園管理運営マニュアル	228,200	海蔵地区社会福祉協議会
合　計		1,498,020	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
さくらまつり来場者満足度アンケート	90%以上	97.5%

7. 成果

・住民の剪定技術向上により桜の木が保全され、美しい堤防を維持できるようになった。
・堤防を含む河川敷の保全に関する情報を地区内外に発信し、桜並木や菖蒲園の保全活動に関心を持つ人を増やすことができた。
・海蔵川河川敷の環境が保たれ、憩の場として市民の利用が増えた。

8. 今後の展開

毎年の桜の木の剪定や河川敷の清掃により、良い環境が保たれ、健康づくりや運動の場としての利用に向けての取組みも進み、海蔵川河川敷が憩の場として四日市市の中心的な位置を占める緑地となる。

桜まつりに関して記録した資料はあまりなく、将来的に、まつりに関しての準備や様々な調整方法などを記録として保存する必要がある。

さらに、桜まつり期間中訪れる約 3 万人（実行委員会把握）の花見客に対して、日々の管理と世話を地域が行っていることをさらに周知していく。加えて、菖蒲の名所としても PR を行っていく。

〈樹勢回復作業〉

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	災害を自分のこととして捉えてみよう事業	地区名	橋北①

1. 望まれる地域の姿

大規模災害のリスクに加え、土地が低いという地域の特性のなかで幅広い世代が防災・減災の認識をもって普段から備え、世代を超えて助け合える地域

2. 地域の現状

３つの市民防災隊による橋北地区防災組織連絡協議会による訓練が行われるなど取り組みが行われている。

3. 課　題

災害に対する「備え」の重要性についての認識を共有し、平常時からの「備え」、発災後の「備え」について住民の認識が十分なものになっていない。

また、世代間の交流と理解をすすめるとともに、今後、地域のなかで継続的に活躍できる人づくりにつなげることが必要である。

4. 実施内容

○「橋北地区防災・減災を考える会」の立ち上げ⇒「Salon de 防災」の開催
　➢7月5日、10月4日、10月25日、１月10日
○幅広い年代への働きかけの実施
　➢防災講演会（6月17日／橋北中学校）・・・・・防災組織連絡協議会
　➢女性と防災ワークショップ（7月12日／橋北小学校 PTA）、非常食調理体験（8 月 26 日／橋北小学校）
○三重県の「ちから・いのち・きずなプロジェクト」との連携
　➢タウンウォッチングの実施（11 月 11 日）
○「橋北防災・減災大作戦」の開催（3月4日）

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	女性と防災ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ	18,000	講師報償
需用費	非常食調理体験	7,370	コメリほか
	ﾀｳﾝｳｫｯﾁﾝｸﾞ	28,486	コメリほか
	土鍋 de 防災	40,434	萬古陶磁器振興協同組合連合会ほか
委託料	橋北防災・減災大作戦	496,800	橋北地区防災組織連絡協議会
	合　計	591,090	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
防災講演会	参加者 50 名	38 名参加
女性と防災ワークショップ	参加者 20 名	17 名参加
橋北地区防災・減災を考える会	立ち上げ	7/5 立上げ ⇒ 4回開催
地区防災・減災フェスタ	100 人	タウンウォッチング参加者ほか 60 名参加
橋北防災・減災大作戦	200 名	約300名参加

7. 成果	8. 今後の展開
「防災講演会」「女性と防災ワークショップ」「橋北地区防災・減災を考える会」の立ち上げなどを行い、「Salon de 防災」を開催することができた。 また、３月４日に開催した「地区防災・減災大作戦」については、消防団と市民防災隊に対する地域の関心を高めることができた。また、実行委員会形式としてことで、消防団・市民防災隊とＰＴＡ・育成連絡協議会の参加を得ることができ、今後の地区防災への取り組みを進めるためのきっかけとすることができた。	地域特性に応じた防災・減災への住民の意識と備えがあるべき水準に至っていないことから、インパクトのある体験型のイベント実施を通じて意識啓発を行う。 これとともに、地域内の各種団体の連携を強化し、「減災に取組むまち」という雰囲気づくりに取り組むことで地域課題に意欲的に取り組んでもらえるようにする必要がある。

〈Salon de 防災〉

〈女性と防災ワークショップ〉

〈防災・減災体験大作戦〉

－ロープワーク体験－

－中学生参加の放水訓練－

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	高齢者生き活きはつらつ促進事業 in 橋北	地区名	橋北②

1. 望まれる地域の姿

高齢化が進む地域において地域の高齢者が安心して在宅生活が行えるようにする。

2. 地域の現状

65 歳以上の高齢者の人口に占める割合が約34%である。

3. 課　題

地域住民に介護や福祉に関する理解を深めてもらう機会を確保するとともに、認知症の方をはじめとする高齢者を地域で支える仕組みづくりを維持、発展させていく必要がある。

また、平成 30 年 4 月に特別養護老人ホームが２カ所開設されることから地域全体が繋がる仕掛けを行うことが必要である。

4. 実施内容

地域住民に介護や福祉の理解を深め、身近な存在ととらえてもらえるように、民生委員児童委員協議会と介護保険事業所が連携し、幅広い世代が集い、楽しみつつ認知症について学ぶとともに、認知症を介護する人のストレス解消に資する講座を1月21日に開催した。

①認知症サポーター養成講座
　・・・劇形式で認知症について理解を深める

②タッピングタッチ講座（タッピングタッチ協会）
　・・・認知症を介護する人のストレス解消リラクゼーション法

③福祉相談、介護相談

5. 経費

金額単位：円

支出内訳		支出金額	支出先
委託料	ハピサポフェスタ事業費	175,000	ハピサポ橋北
合　計		175,000	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
認知症サポーター養成講座	受講者　80人	97人

7. 成果	8. 今後の展開
地区の幅広い世代が、認知症に対する正しい知識を得ることができた。また、タッピングタッチという介護する側のケア体験を共有することができた。 こういった取り組みを継続して実施することで、高齢者が多い地域全体で「認知症見守り」を行えるようなまちづくりにつなげることができる。	認知症にやさしく、できるだけ長く在宅生活を続けて行けるような地域とするための取組みを継続する。 高齢者に関する「見守り、支援ネットワーク」をより確かなものとして構築し、「地域の見守り力」を高めることで、地域防犯・防災力向上につなげる。 また、地域に新たに開所する特別養護老人ホームとの連携も視野に入れ、地域全体が繋がる仕掛けを行うことが必要である。

〈認知症サポーター養成講座〉

〈タッピングタッチ講座〉

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	中部地区魅力・きずなアップ推進事業	地区名	中　部

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
中部地区の所有する歴史的・文化的資源や観光資源などの魅力をさらに高揚し、地区の一体感を醸成することができる地域。 また、高齢化の進展が著しい当地区において、いきがいづくり・まちづくり・支え合い等を通じて、将来の地区を担う人材を育成し、ネットワークを構築することにより、きずなを深めていくことができる地域	・５地区にそれぞれ伝統等特色がある。 ・住宅、商店街、工場等が混在している。 ・高齢化の進展が著しい。 ・各種団体に後継者不足が見受けられる。

3. 課　題

東海道、三滝川慈善橋市場、鯨船、大入道など、中部地区内には歴史的・文化的資源や観光資源が多数存在するものの、これらに関する住民の意識はさほど高くないと思われる。

地区の持つ魅力を改めて認識し、将来の地区のまちづくりを担う人材の育成、ネットワークの構築等、地区のきずなを深めていく必要がある。

4. 実施内容

①　案内看板の設置・マップの整備、講演会の開催

東海道、三滝川慈善橋市場、鯨船勢州組、大入道及び鵜の森公園という歴史的・文化的資源や観光資源の案内看板を各地区に設置するとともに、中部地区市民センター内に設置された「中部地区ふるさとマップ」の整備を行った。

また、これら資源に関する地区の魅力を再発見し、次の世代に継承して地区の財産を守っていくための意識の高揚を図るため、「中部地区の魅力を再発見してみませんか」と題して講演会を開催した。（３月１２日実施、３４名参加）

②　東海道の法被、ミニ幟及び幟の作成

東海道の法被を３０枚作成し、東海道沿線の共同地区及び浜田地区において実施されるイベント（１０月１５日共同地区ふれあい広場、１１月１８日共同地区ぬくもりの集い、１２月３日浜田地区ふれあい餅つき大会・体力測定大会）においてＰＲ用に着用していただくとともに、ミニ幟３０個及び幟２０本を作成し、東海道沿線の共同地区及び浜田地区の商店街等（１１月～１２月に配付）に掲出していただくことにより、地区の一体感・おもてなしの心の醸成と東海道の魅力の発信につなげた。

③　講演会・研修会・ワークショップ等の開催

連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会と連携し、地区のきずな・いきがいづくり・支え合い等の課題に関して、地区全体に還元することができるように、中部地区市民センター管内の５地区全体を対象に、「これからのまちづくりのために」と題して、「市内の様々なささえあい活動」、「認知症を正しく知って備えよう」をテーマに講演会を開催する（２月７日実施、６３名参加）とともに、３会場〔同和・中央・港地区（２月１５日実施、２５名参加）、共同地区（２月２３日実施、２５名参加）、浜田地区（３月１６日実施、２１名参加）〕に分けて、「楽しく笑顔で」と題して、ワークショップ〔福祉レクリエーションセミナー〕等を開催した。

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
報償費	講師報償費	20,000	地元講師1名
需用費	中部地区ふるさとマップの整備	57,780	山路工業㈱
	懸垂幕作成	55,620	山路工業㈱
	横断幕作成	10,800	山路工業㈱
	チラシ印刷	74,520	㈲弘運舘印刷
	東海道法被の作成	142,560	㈲ウノモリ染工
	東海道ミニ幟の作成	38,880	㈲ウノモリ染工
	東海道幟の作成	65,880	㈲ウノモリ染工
委託料	案内看板の設置	417,420	山路工業㈱、㈱かじり、武田技研㈱
	魅力・きずなアップ推進事業	315,000	中部地区地域社会づくり推進会議 港地区社会福祉協議会
使用料及び賃借料	本町プラザ、なやプラザ、新正公会所使用料	17,480	公益財団法人四日市市文化まちづくり財団、港地区社会福祉協議会、新正町自治会
合　　計		1,215,940	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
講演会の参加者数 『これからのまちづくりのために』	60名	63名
ワークショップの参加者数 〔同和・中央・港地区〕	20名	25名
ワークショップの参加者数 〔共同地区〕	20名	25名
ワークショップの参加者数 〔浜田地区〕	20名	21名
講演会の参加者数 『中部地区の魅力を再発見してみませんか』	20名	34名
三世代料理教室の参加者数	20名	30名

7. 成果

いずれの講演会及びワークショップについても、一定の参加を得ることができた。

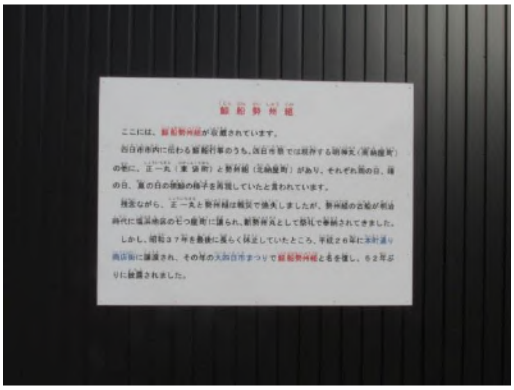
また、東海道のミニ幟、幟、法被を作成し、地区においてご利用いただく中で、好評を博することができ、地区の一体感・おもてなしの心の醸成と東海道の魅力の発信につなげることができた。

今年度の一連の事業を通じて、地区住民が地区の魅力ときずなに関してさらなる関心を抱いていただくことができるよう、一定の問題提起・考えるきっかけづくりができた。

8. 今後の展開

さらなる高齢化の進展と自治会等の後継者不足が切実に懸念される当地区において、住民の健康・医療や住民同士のきずな・見守り・支え合いと地区の今後のまちづくりを切実な課題として認識していただく必要があり、住民の意識の高揚をはじめとして、地域の人材育成はもとより、関係団体と連携を図って、地域が自らの活動に当たって主体的に動いていただくことができるよう努めていく。

〈案内看板〉



〈中部地区ふるさとマップ〉

〈東海道法被〉

〈東海道幟、ミニ幟〉

平成29年度　地域活動費（館長権限予算）実績報告書

事業名	地域コミュニティ活性化促進事業	地区名	楠

1. 望まれる地域の姿	2. 地域の現状
・生まれて良かったな、住んで良かったなと実感できる安心、安全かつ魅力、誇りを持てる地域 ・自助、共助、公助を、それぞれの家庭や地域の中でお互いに理解し、支えあい助けあうことができるコミュニティ豊かな絆の強い地域 ・地域のことは地域住民が決定し、個性的で豊かな地域社会を築くことができる地域	・年々高齢化が進んでおり、また、高齢者だけの世帯も増加している。 ・四日市唯一の自然海岸を含め、自然豊かで古くからの産業も息づいている。 ・まちづくりを支える多様な団体が活動している。

3. 課　題

・高齢化や核家族化が進む中、地域の方々が安心、安全で心豊かな生活を送ってもらうためには、自助や家庭内共助だけでなく、近隣の方々同士が、ともに支えあい助けあい、お互いを気づかいあう社会づくりが必要不可欠となってきている。
・まちづくりの基盤の一つである各種団体への参加や自治会に加入する人が年々減少するとともに、担い手の高齢化が進んでおり、子育てが終わった方の引き入れなど担い手の若返りが急務である。
・人と人との交流や団体間の繋がりも年々希薄になってきている。

4. 実施内容

1．くすりんフェスタ PARTⅡ　【改：連携強化・団体育成・活性化】

「高齢福祉」の中から「認知症」をテーマとしたイベントをツールとして、楠地区民生委員児童委員を中心に関係団体で運営協議会を設置し、自らの力でイベントを企画、運営してもらうことで、共助の中心となる団体の育成及び連携強化、活性化を図った。

また、イベントに参加してもらった人たちには「認知症の予防」「家庭でできる認知症サポート」など、自身の役割を理解してもらい、自助の強化を図った。

(1)実施日　平成 29 年 8 月 6 日
(2)参加団体　楠地区民生委員児童委員、楠地区社会福祉協議会、楠中学校、ゆりかもめ
(3)事業概要　①認知症予防体操コグニサイズ　②回想法　③脳トレ体操
④認知症を正しく理解（展示コーナー）　⑤認知症に関する寸劇
⑥語ろう（認知症について各年代別代表者と楠中学校の生徒が語り合う、認知症患者とその家族が参加者と語り合う）
⑦出張街角カフェ（珈琲の効能について）

2．黄色いハンカチ支え合い【連携強化・団体育成・活性化】

「防災」の中から「災害時における安否確認」をツールとして、楠地区自主防災組連絡協議会を中心に関係団体で運営協議会を設置し、自らの力で安否確認訓練を企画、運営してもらうことで団体等の育成及び連携強化、活性化を図った。また、当訓練を通じて、地域住民の方々に自治会を含めた各種団体の役割等を理解してもらい、団体への加入あるいは参加を呼び掛けた。

(1)実施日　平成 29 年 11 月 12 日
(2)参加団体　楠地区自主防災協議会、楠地区連合自治会、楠地区民生委員児童委員協議会、四日市市消防団北楠分団・南楠分団、楠地区子ども会育成者連絡協議会
(3)事業概要【事前】①自治会を通じて、黄色いハンカチを使用した安否確認訓練について地区住民へ周知
【当日】②地震発生を想定したサイレン吹鳴、消防車による広報活動、防災行政無線の広報によるハンカチ掲示③黄色いハンカチ確認

3．地域提案型コミュニティスクール「１日先生」　【連携強化・団体育成・活性化・人材発掘】

「子育て支援」の一つとして地域の次世代を担う子どもたちに対する「１日先生」をツールとして、楠小学校 PTA を中心に関係団体で運営協議会を設置し、自らの力で各種講座・教室を企画、運営してもらうことで団体等の育成及び連携強化、活性化を図るとともに、地域の将来像について考えてもらった。また、当事業に参加してもらった楠小学校の児童たちには地域で活躍する団

体等の方々に触れることで、将来への視野を広げるとともに、地域に愛着と誇りを持ってもらい、また、将来的には新たなまちづくりの担い手としてつなげることを狙いに実施した。

(1)実施日　平成29年9月23日

(2)参加団体　楠小学校PTA、楠地区子ども会育成者連絡協議会、楠地区自主防災協議会、楠地区南北消防分団、楠小学校、楠ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ　など

(3)事業概要　①ふでで遊ぼう　②英語であそぼ　③科学の祭典　④和菓子　⑤ハンドベル　⑥防災教室　⑦陸上教室　⑧バレーボール教室　⑨サッカー教室など全２０種の教室を各２回開催。楠小学校の各児童は上記の中から２種類の教室に参加し、普段の学校での授業とは違う体験学習に参加

４．ほうかごあそびクラブ　【地域コミュニティ・連携強化・活性化】

「子育て支援」の一つとして、学校の放課後を利用したスポーツ教室を開催することで、子ども同士の交流を活性化させるとともに、スポーツを通じてチームプレイ(仲間、共助)の大切さを学んでもらい、地域コミュニティの基礎を築くために実施した。また、楠ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌを中心に関係団体で運営協議会を設置し、この教室を企画、運営してもらうことで団体等の育成及び連携強化、活性化を図った。

(1)実施日　平成29年12月4～8日、11～15日、平成30年1月15～19日、22～26日

(2)参加団体　楠小学校PTA、楠小学校、楠ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ　など

(3)事業概要　①屋外スポーツ（ドッジボール、リレー、縄跳び等）　②屋内スポーツ（卓球、バドミントン、椅子取り等）

５．地域交流・情報発信　【地域コミュニティ・情報発信・連携強化・活動支援・人材発掘】

楠地区市民センターの空きスペース等を活用した、地域の文化、歴史、団体の活動等の情報発信及び地域住民の交流の活性化について、地域とともに検討し、試験的に実施した。

(1)実施日　平成30年1月～3月

(2)参加団体　楠地区社会づくり協議会、楠地区連合自治会、楠地区まちづくり検討会、楠歴史民俗資料館、楠小学校、楠中学校、楠南北幼稚園、楠南北保育園　など

(3)事業概要　①地域の歴史、文化、団体活動等の展示、②交流スペースの確保、③関連図書の充実　など

5. 経費

金額単位:円

支出内訳		支出金額	支出先
需用費	インク、ロール紙ほか	251,141	(株)四日市事務機センターほか
	DSパネルA3ほか	246,963	(有)青商店
委託料	くすりんフェスタ PARTⅡ	189,700	四日市市楠地区民生委員児童委員協議会
	黄色いハンカチ支え合い	262,770	楠地区自主防災協議会
	1日先生	277,500	楠小学校PTA
	ほうかごあそびクラブ	2716,20	楠スポーツクラブ
合　計		1,499,694	

6. 目標及び実績

指標	目標	実績
1.くすりんフェスタ PARTⅡ	事業参画団体数 4団体 （事業参加人数 150名）	事業参画団体数 5団体 （事業参加人数 150名）
2.黄色いハンカチ支え合い	事業参画団体数 3団体 （事業参加人数 800名）	事業参画団体数 5団体 （事業参加人数 3,085名）
3.１日先生	事業参画団体数 7団体 （事業参加人数 300名）	事業参画団体数 19団体 （事業参加人数 382名）
4.ほうかごあそびクラブ	事業参加人数 40名	事業参加人数 42名
5.地域交流・情報発信	アンケートによる満足度９０％	アンケートによる満足度９０％

7. 成果

・イベント等の実施を通じて、各団体の連携が深まり、活動が活性化することで、他の地域課題の解決についても協力していくようになるなど地域における共助の強化が図れた。
・イベント等への参加を通じて、他に頼るだけでなく、自らの役割に気づき、実践してもらえるなど自助力の強化ができた。
・自治会を含む各種団体等の役割を理解してもらい、加入促進及び担い手の発掘を行うことができた。
・今まで知らなかった地域を理解し、誇りを持ってもらうことができた。
・人、団体等の交流が活性化することで、地域コミュニティの強化が図れた。

8. 反省点･今後の展開

今回取り上げたテーマ以外の地域課題についても、各種団体が協力して対応できる体制づくりを進めるとともに、自主自立化に向けた検討を進める。

（くすりんフェスタ PARTⅡ）

（黄色いハンカチ支え合い）

（地域提案型コミュニティスクール「１日先生」）

（ほうかごあそびクラブ）

（地域交流・情報発信）